

22

163

# 佛國商事會社法摘要問答

## 日本法律社

控訴院檢事長北畠治房君題字  
同評定官木原章六君序文  
內田正雄著  
佛國法律博士熊野敏三君校補

035409-000-3

22-163

仏国商事會社法摘要問答

内田 正雄 / 編

M20

BBO-0594





No. 381

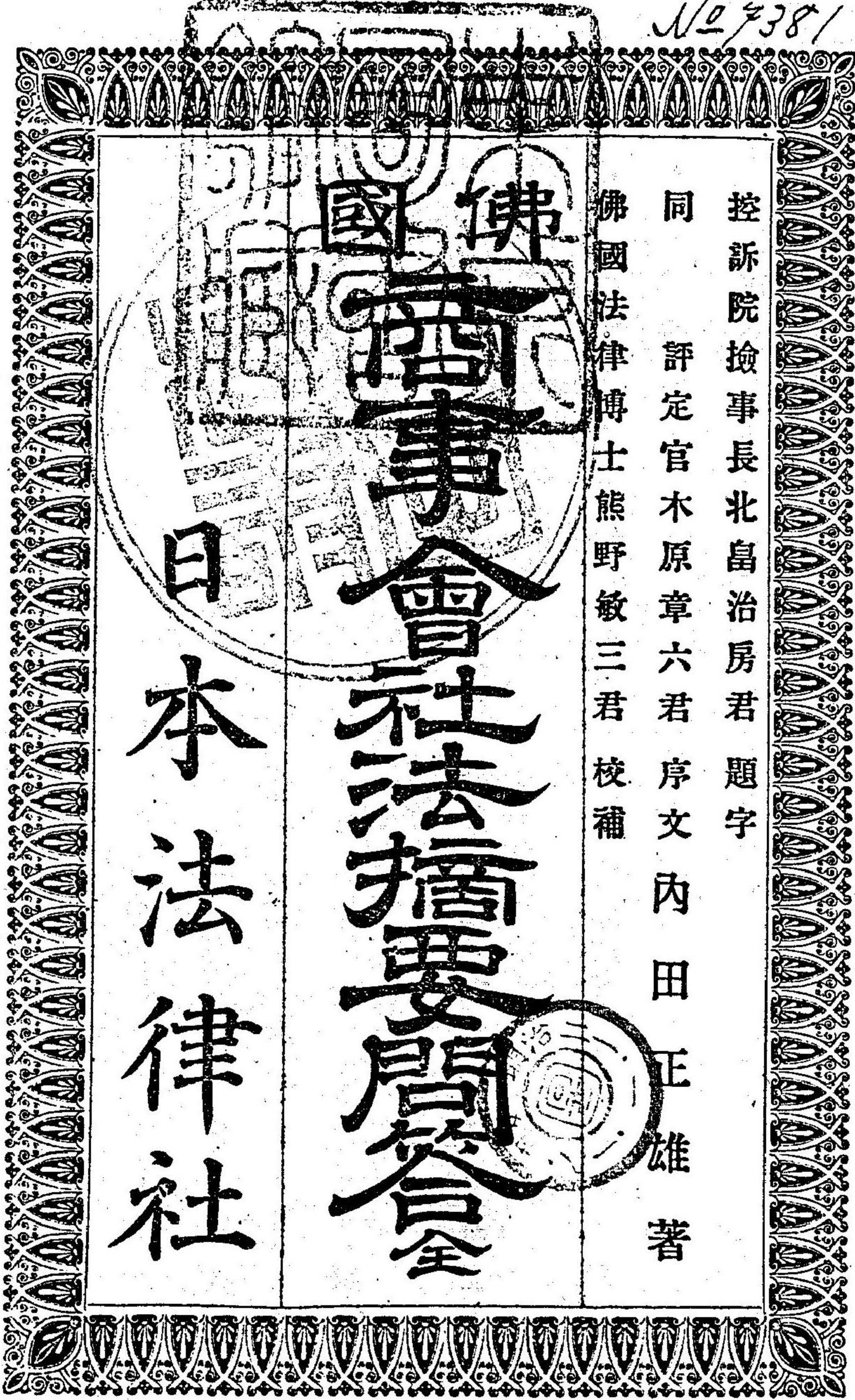
佛國法律博士熊野敏三君校補

控訴院檢事長北畠治房君題字

同評定官木原章六君序文內田正雄著

佛國商事會社法摘要

日本法律社





# 市 答

## 凡例

- 一 本書ハ佛國商法中會社法ニ關スル部分ヲ千八百七十六年ノ法律ニ據リ傍ラ「グビエール」氏及ヒ「アト」氏等ノ商法ヲ參酌シ編纂セシモノニシテ逐一問題ニ設ケ之レカ答案ヲ附シ以テ專ラ法學生ヲシテ試験ニ應スルノ便益ヲ得セシムルニアリ
- 一 書中問題ト答案トノ部類ヲ分チ各首項ニ番號ヲ附記シ照合ノ便ヲ得セシム
- 一 附言ハ優ニ諸學家ノ論議ニ涉ルモノヲ掲ケ答案ノ參考ニ供スルモノナリ

明治二十年十一月

著者識



定定實

丁亥冬月

布穀





商事會社法摘要問答序

僚友內田孝臨著商事會社法摘要問答携來乞序余受而讀之則就佛國商法中苟關會社法者逐一設之問隨揭其解釋其解釋者則悉佛國法學大家之說其問者則不問大小難易苟有可疑者則出之蓋法律者其文簡而其意深故讀其文如易而繹法意之所存則老成法家有所不爲易如此書所揭盡法條之疑義無所遺且解釋之丁寧明晰一讀之不要復就師而學也夫我邦之法律而完備者獨有刑法治罪法而已至如民法商法儘有單行之法律未爲備也方今商業之盛會社之興月加其數然而上自政府下庶民據



以爲會社之法律者亦獨有歐洲諸國法律之法意耳如此  
 書即說盡佛國商業會社之法意無亦餘蘊世之志商業者  
 一讀此書其於會社之事所益亦大矣

明治二十年十一月

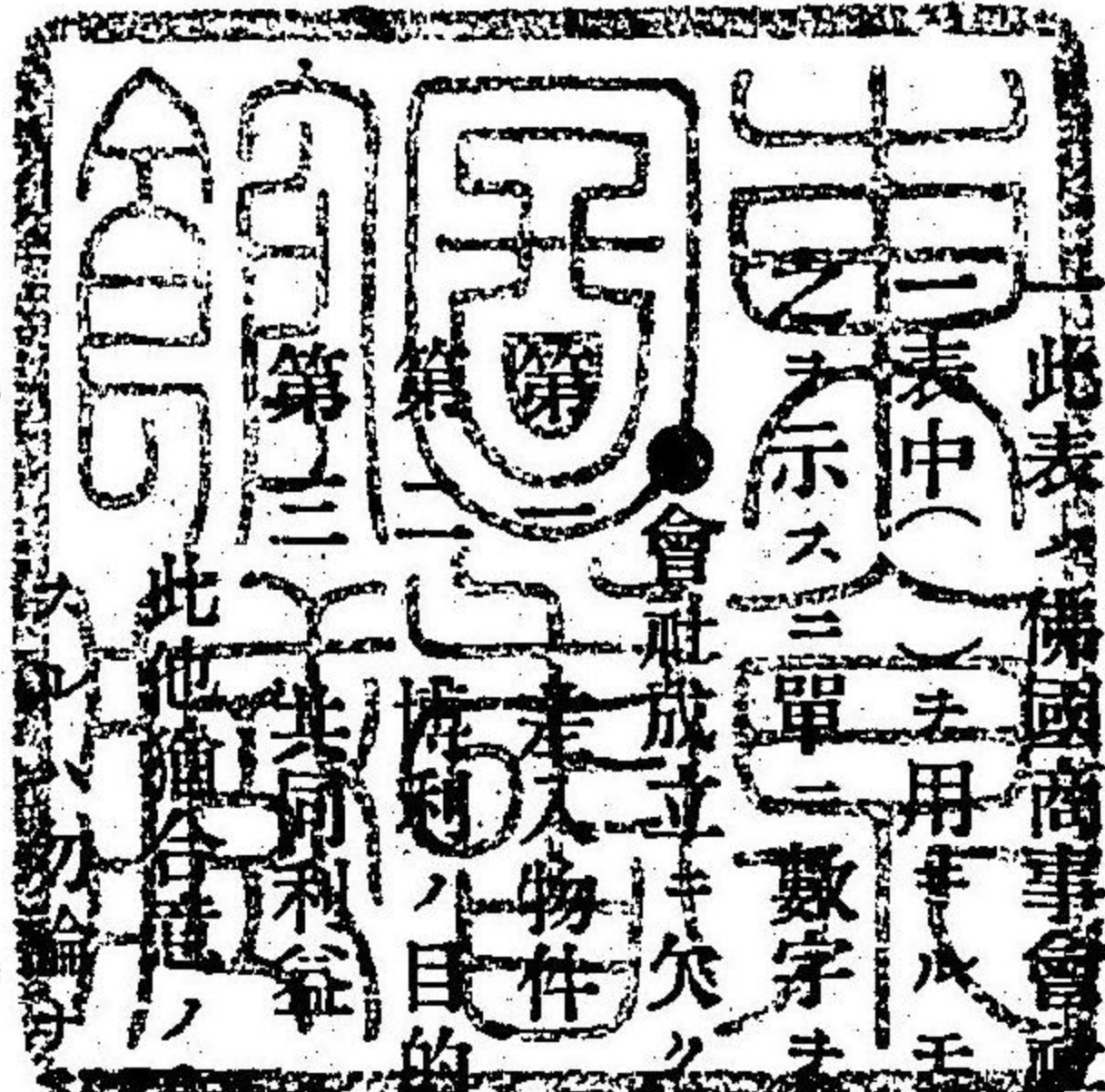
控訴院評定官正六位 木原章六識

佛國商事會社法要件一覽表

內田正雄 編纂

例言

此表佛國商事會社法ニ付專ラ其要件ヲ摘載スルモノナリ  
 表中( )ニ用キルモノハ編者ノ補註ニシテ〔 〕ヲ用キルモノハ參觀ノ箇條ニ係ル  
 示スニ單ニ數字ヲ用キ井民商等ノ字ヲ冠スル者ハ各法ニ係ル 編者識  
 ●會社成立ニ欠ク可ラサル條件



此他種各法ノ有効ニ必要ナル承諾、能力、確定ノ事物、適法ノ原因ノ四個ヲ要  
 ス

差入物件ト 金圓  
 爲スヲ得ヘ 其他ノ財產  
 キモノ 又ハ勞力ヲ以テシ或ハ商業上ノ信用ヲ以テスルヲ得ル



差入物件ノ  
金圓ナルモ  
普通法ニ異  
ナル點ニア  
リ

第一 裁判上請求ノ日ニアラスシテ差入ヲ實行ス可キ日ヨリ當  
然息銀ヲ拂フノ義務

第二 約束金額ノ利子ノ外差入ノ遲滯ニ依リ會社ニ損害アリシ  
モハ尙之ヲ拂フ可シ 民第一八四六  
一一五四

差入物確定  
シタル物件  
ノ所有權ナ  
ルモト確定  
物ノ收實權  
ヲ以テスル  
モトノ異ナ  
ル點

確定シタル物件ノ所有權ヲ差入ル、事ヲ約シタルモハ會社ハ直  
ニ物件所有ノ權ヲ獲得シ其損失ニ於ルモ渾テ會社ノ負擔スル處  
ナリ

確定物ノ收實權ヲ差入物ト爲スヲ約シタルモハ其收實權ハ會  
社ノ獲得スル處ナルモ損失ハ左ニ區別ス

一 收實權ニ關シテハ會社ノ負擔トス

二 虛有權ニ關シテハ社員ノ負擔トス

若シ其收實權ノ目的消耗品ナルカ又ハ評價シタル物件ナルモ  
ハ此限ニアラス

●會社ニ欠ク可ラサル要件ハ財產共通ト之ヲ種別ス

第一 會社ハ契約ニ依テ成立モノニシテ總社員ノ承諾及ヒ能力アルヲ要ス

第二 財產共通ハ必スシモ之ヲ要セサルナリ

會社ハ無期限ニテ設立スルヲ得ル

第三 財產共通ハ法律上五年以上ノ時間共通ノ約ヲ爲スヲ禁シタリ

一般ニ會社ノ契約ハ人ヲ察シテ結フモノニシテ互ニ相識リ好ム者ノ間ニ  
成立ス故ニ特約アルモ外社員中ノ一名死去シタル時ハ解社ス可クシテ  
其相續人ノ間ニ會社ヲ繼續ス可ラス

財產共通ハ人ヲ察シテ設クル者ニアラサレハ共有者ノ一名死去スルモ其  
相續人ノ間ニテ依然繼續ス

第四 會社ハ少ナクモ商事ニ關シテハ概シテ無形人ナリ

財產共通ハ更ニ人タルノ資格ナク共有者間ニ未分ノ狀態アルニ過キス

●商事會社ト民事會社ヲ區別スルノ利益ハ左ノ諸點ニアリ

○一 証據及ヒ公告 ○二 支配人ノ權限 ○三 連帶ノ責任 ○四 支拂ノ停止 ○五 裁判管轄 ○  
六 經時効 ○七 無形人タルト

●商事會社ノ種類

一 合名會社 二 差金會社 (通常又ハ利益)

三 無名會社 四 共分組合



五資本増減會社

合名

性質

人ニ基クモノニシテ即チ人ノ會社ナリ  
社員一同無限且ツ連帶ノ義務アリ  
社名(シリアル)但社員一同ノ名前ヲ集合スルモノナリ  
公正書証若クハ

構成

私証書 但私証書ヲ以テスルキハ民法第千三百二十五條ノ規則ニ從  
フヲ要ス  
社員一同互ニ管理ノ權ヲ有ス但別段ノ契約アルキハ格別ナリ

會社

支配

會社契約書ヲ以テ撰任シタル管理人ハ罷免スルヲ得ス

合名會社々

第一 管理人(若シ各社員管理者タルキハ社員中ノ一名)ノ爲シ

員ヲシテ連

タル取引ナルコ

帶義務ヲ負

第二 社名ヲ以テ爲シタル取引ナルコ或ハ然ラサルモ社外ノ權

擔セシムル

ニ要スル條

利者ニ於テ其契約ハ會社ノ爲メ爲シタルコヲ証明スルコ

件

差金

性質

人ト物トノ混同ニ依テ成ル  
無限責任社員及ヒ有限責任社員ノ二個ヲ以テ成立ス  
社名但シ無限責任社員ノ名前ヲ以テ稱シサル可ラス  
公正証書若クハ

構成

私証書但私証書ヲ以テスルキハ民法第千三百二十五條ノ規則ニ從フ  
ヘシ

會社

支配

無限責任社員ニ非サレハ管理人タルヲ得ス  
法律ハ有期責任社員ニ管理者ノ代理人トシテモ會社ノ事務ヲ管理ス  
ルコヲ禁シタリ

資本

無名

性質

「レーグンソシアル」ナルモノナリ其目的トスル所ノ事業ヲ執リ以テ  
社名トス

構成

公正証書又ハ私証書ヲ以テスルヲ得ル私証書ヲ以テスルキハ株式差  
金會社ニ同シシ正本ニ通テ認ムルヲ要ス

會社

支配

此支配ニ參與スルヲ得ルモノニアリ  
一株主總會 二取締役 三検査役



●株式會社及「アンテレー」會社

- 株式會社
- 一 株式差金會社
- 二 無名會社

- アンテレー會社
- 一 合〇會社
- 二 通常差金會社

株式差金會社及ヒ無名會社ニ於テ各社員ノ持部ヲ稱シテ株式ト云ヒ合名會社及ヒ通常差金會社ニ在テハ之ヲアンテレー（持部ト稱ス）ト稱ス

●株式ト持部トノ差異

- 第一 持部ハ人ノ觀察ヲ主トスルモノニシテ讓渡ス可カラサル者トス  
株式ハ之ニ反シ人ヲ主トスルニ非サレハ讓與シ得ヘキ性質ヲ有ス
- 第二 持部ハ之ヲ讓與シ得ル場合ト雖モ民法上ノ規定ニ循ハサルヲ得ス（義務者ニ通知ヲ爲シ又ハ義務者公正ノ證書ヲ以テ承諾スルコト）  
株式ハ之ニ反シ商法上ノ手續即チ其記名ナルト命令ナルト又無記名ナルトニ從ヒ或ハ帳面書換等ノ手續ヲ以テ其所有權ヲ移スコトヲ得ル
- 第三 持部高ノ額面ハ各個決シテ一様ナラス

株式ハ必ス其額ヲ一定セサル可ラス

斯ノ如ク二個ノ間ニ差異アル所以ハ畢竟株式會社ハ人ニ因テ成立モノニ非ラスシテ一ニ資本ヲ基トスルヲ以テナリ

●株式ノ種類

- 一 無記名株式
- 二 記名株式
- 三 命令株式

一 無記名株式ハ唯手ヨリ手ヘ渡スヲ以テ讓渡ノ効アリ

記名株式ハ之ニ反シ其讓渡ニ付テハ帳面書換ノ法式ニ據ラサルヲ得ス

二 無記名株式ハ其讓渡ノ便ナルヨリ所有權移轉ヲ了知スルコト能ハスシテ幾數回モ取引ノ目的物タルヲ得故ニ所有權移轉稅ハ年稅トシ前年ノ平均相場ニ從ヒ株式價額百「フランク」ニ付二十「サンヤーム」ヲ利子券ノ金額中ヨリ差引クコトニ定メタリ

記名株式ノ讓渡ハ帳面書換ヲ以テシ其移轉毎ニ帳簿ニ登記スルヲ以テ取引實價ノ千分ノ五ノ移轉稅ヲ徵收スルモノトス

三 無記名株式ハ原則ニ於テ有形動產ト看做ス

無記名株式ノ區別



記名株式ハ之ニ反シ通常債主權ト看做ス

四 株式ノ記名無記名ヲ區別スルハ遺失盜難ノ場合ニ在テ其利益最モ大ナリトス

●株式ト負債券トノ差異

- 第一 株式ハ社員ノ持部ニシテ其之ヲ所有スル者ハ即チ社員ナリ  
負債券ハ會社ニ對スル債主權ニシテ之ヲ有スル者ハ即チ貸主ナリ
- 第二 株式ハ其利益ニ多少ノ増減アリ  
負債券ハ一定ノ利子ヲ得ルノ權ヲ附與ス
- 第三 株式ハ會社資本ノ一部ニシテ即チ資本ノ元素ナリ  
負債券ハ會社ノ負債ニシテ即チ會社負債ノ元素ナリ
- 第四 株式ハ會社資本ノ多少ニ從ヒ或ハ百「フランク」或ハ五百「フランク」ナリ  
負債券ハ通常五百「フランク」ノ價額ナリ
- 第五 株主ハ總會議ニ參與シ會社ノ利益ニ關シ發議スルノ權利アリ  
負債券持主ハ其會議ニ參與スル權ナシ
- 第六 株主ノ株式加入ヲ申込タル所爲ハ商業トス故ニ之ニ關スル爭論ハ商事裁判所ノ管轄ナリトス

負債券ヲ申込ム者ハ貸借ヲ約ス者ニシテ民事裁判所ノ管轄ナリトス  
又負債券ハ株式ト齊シク無記名アリ記名アリ又命令ナルアリトス

●株式差金會社ノ創立ヲ確定スルノ要件

- 一 會社ノ資本ハ其高二十万「フランク」ヲ超過スルト否トニ從ヒ少クモ百「フランク」又ハ五百「フランク」ノ株式或ハ小割株式ニ分割スルコト
- 二 資本全部ノ申込アルコト
- 三 各株主少クモ其申込高ノ四分ノ一ヲ拂込ミタルコト
- 四 此資金申込ト其拂込トハ公正証書ニ作リタル支配人ノ陳述書ヲ以テ証スルコト  
但シ其陳述書ニハ申込人名簿拂込簿會社創立証書ノ私証書ナルニ於テハ其二通ノ内一通若シ公正証書ナルモ陳述書ヲ作リタル公証人ト異ナル時ハ其原本ヲ添ユ可シ
- 五 差入物件ノ金圓ニ非ラサルモ其物品ノ價額又一社員ノ爲メニ特別利益ヲ約シタルモ其金高ヲ先ツ第一總會ニ於テ査定シ次ニ若干ノ期限後第二總會ヲ開キ總株主四分ノ一ト會社資本ノ四分ノ一ニ當ル多數決ヲ以テ之ヲ認可スルコト
- 六 會社創立確定ノ後未ダ事業ニ着手セサルノ前株主ノ總會議ニ於テ少クモ三名ノ監察役ヲ撰任スルコト



●株式差金會社ノ支配ニ關スル要件  
株式差金會社ノ支配ニ付テハ左ノ三條件ヲ具備スルヲ要ス

第一 管理人即チ諸事ヲ指揮スル任アル者

第二 監察役即チ監督ノ任アル者

第三 株主總會即チ會社ノ爲メ議決シ會社ノ管理ニ付キ意見ヲ述ヘ并ニ計算書ヲ審査スル者

●記名株式ヲ無記名株式ニ變更スルコト

千八百六十七年ノ法律ヲ以テ左ノ三個ノ條件ヲ履ムルハ株式ヲ無記名ト爲スコトヲ許シタリ

一 會社契約書ニ株式變更ノコトヲ豫メ規定シタルコト

二 株金ノ半額ヲ拂込ミタルコト

三 總會ノ決議ニ於テ株式ノ變體ヲ認許シタルコト

●無名會社ニ在テハ其信用ノ基礎タルモノハ會社ノ資本ニシテ人ニアラストノ原則ヨリ左ノ結果ヲ生ス

一 會社ノ資本ハ株式差金會社ノ資本ト等シク之ヲ株式又ハ小割株式ニ分ツコトヲ得(商三四)

二 無名會社ハ株式差金會社ト異ナリ社名ヲ有セス單ニ起業ノ目的ヲ以テ之ヲ示スニ過サルコト

●株式差金會社ニ關スル規則ニシテ無名會社ニ等シク適用シ得ヘキ條件

一 會社ノ資本ヲ成規ノ類ナル均一ノ株式ニ分割スルコト

二 資本全額ノ申込アルコト

三 株金四分ノ一ノ拂込アリシコト

四 株金四分ノ一ノ拂込ノ後ハ之ヲ他人ニ讓渡スヲ得ルコト

五 株金半額拂込ノ後ハ記名株式ヲ無記名ニ變更スルヲ得ルコト

六 總會ニ於テ金圓ニアラサル差入物件及ヒ特別利益ヲ査定スルコト

●株式差金會社ト無名會社ノ差異

第一 株式差金會社ハ無限責任有限責任(即チ株主ナリ)ノ二種ノ社員アリ

無名會社ニハ唯一種ノ社員アルニ過キス即チ株主是ナリ而シテ其責任ハ株式高ニ上ル

第二 株式差金會社ノ社名ハ無限責任社員ノ名前ヲ以テス

無名會社ニハ社名ナルモノナシ

第三 株式差金會社ノ管理人ハ無限責任タル資格ヲ有スルヲ以テ自ラ保証アリ



テ任期ニ定限ナク又免黜セラル、トナシ  
無名會社ノ支配人ハ代理人ナルヲ以テ任期ニ定期アリ又免黜セラル、ト  
アリ然レモ支配人タル者ハ其社員ニシテ必スヤ株式ヲ有スル者タルヲ要  
ス

第四 株式差金會社ノ管理人ハ其地位確定セルヲ以テ間斷ナク株主中ヨリ撰任  
シタル監察員ノ監督ヲ受クルモノトス

無名會社ノ支配人ハ其地位確定セル社員若クハ社外人ヨリ撰任シタル檢  
査役ノ監督スル処ニシテ其監査ハ總會前三ヶ月間之ヲ行フニ過キス

第五 株式差金會社總會ノ規則ハ之ヲ社則ニ放任ス  
無名會社總會ノ規則ハ法律ヲ以テ規定スルヲ多シ

第六 株式差金會社ニハ社員ノ最少數ヲ定メス  
無名會社ハ社員七名以上ナラサル可ラス

第七 株式差金會社ニ於テハ準備金ヲ要スルノ義務ナシ  
無名會社ハ準備金ヲ爲サ、ル可ラス

第八 株式差金會社ニ在テハ會社資金四分ノ三ヲ損失シタル場合ニ於テ會社ノ  
繼續ト否トニ關シ總會ノ決議ヲ要スルヲナシ

無名會社ニ在テハ斯ノ場合ニハ必スヤ總會ノ議決ヲ取ラサル可ラス

● 共分組合ノ組織

共分

性質  
内部ノ會社即チ社員相互間スノミ會社タルノ組織アルニ過キス公衆  
ニ向テ會社ト稱スヘキモノニアラス○公告ノ式ヲ要セス○無形人タ  
ルモノナシ

構成  
証書ヲ要スルヲナシ  
合意契約ニシテ之ヲ證明スルハ商事ニ付許容セラル、諸般ノ證據ヲ  
以テスルヲ得ル

組合

支配  
別段ノ契約ナキハ社員各自ノ名前ヲ以テ支配スルヲ得ヘシ尤其所  
爲ニ付テハ他ノ社員ニ義務ヲ負ハシム可ラス但委任アルハ此限ニ  
アラス

● 共分組合ト他ノ會社トノ差異

- 第一 共分組合ハ商事上許スル諸般ノ證據ヲ以テ證明スルヲ得ル処ノ純然タ  
ル合意契約ナリトス
- 第二 公告ノ法式ヲ要セス
- 第三 共分組合ハ無形人ニアラス



●資本増減會社ノ性質

此ノ會社ハ他ノ會社ノ變体トス  
コノ會社ノ組織ハ各社員<sup>モテリ</sup>遂次其差入資本ヲ増加スルヲ得又最初差入タル資本ヲ減少スルヲ得ルナリ故ニ資本増減會社トス

減會社

此會社ハ他ノ會社ト別異ニアラス其規則少シク異ナルアルノミ其体裁ハ或ハ合名會社ノ組成ニ倣ヒ或ハ株式會社ノ組織ニ倣フアリ  
故ニ合名會社ノ組成ニ倣ヒ設立シタルキハ即チ合名會社ノ規則ト併セテ此會社ニ特別ノ規則ヲ遵奉ス可シ

●資本増減會社ニ特別ナル規則

- 第一 資本増減會社ノ資本高ハ貳拾万「フランク」ニ止リ其以上ニ上ルヲ得ス
- 第二 株式又ハ小割株式ハ最寡數ヲ五十「フランク」ト爲スヲ得ヘシ  
此會社ノ創立ニハ資本十分ノ一ノ拂込アルヲ以テ足レリトス
- 第三 差入金高ヲ引去リ資本ヲ減少シ得ヘキ高ハ社則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ而シテ其高ハ會社資本ノ十分ノ一以下タルヲ得ス
- 第四 各社員ハ特約アルキノ外隨意ニ退社シ得ルノミナラス猶總會ニ於テ社則改正ニ關シ定メタル多數決ニ因リ一名又ハ數名ノ社員ヲ退社セシムルヲ

ヲ議決スルヲ得ヘシト約スルヲ得ル

- 第五 此會社ハ組織ノ如何ヲ問ハス取締役ヲ代理トシ裁判所ニ出頭セシムルヲ得ル

- 第六 此會社ハ社員中ノ一名ノ死去退社、禁治産、破産ニ因リ解散スルヲナク當然殘リノ社員間ニ繼續スルモノトス

●會社設立ノ証據

其分組合ヲ除キ合名會社及ヒ利益差金會社ニ在テハ公正証書若クハ私証書、但シ私証書ナルキハ社員ノ數ニ準シ正本數通ヲ記シタルヲ  
株式差金會社及ヒ無名會社ニ在テハ公正証書若クハ私証書  
私証書ヲ以テスルキハ正本二通ヲ記タルヲ要ス  
又申込及ヒ拂込ヲ証スル公正証書

書面証據

●公告ノ法式

公告ハ左ノ方法ヲ以テス

- 第一 會社創立證書若シ私證書ナルキハ正本一通又公正證書ナルキハ謄本一通  
ヲ會社所在地ノ商事裁判所及ヒ治安裁判所ノ書記局ニ納ムルヲ  
株式差金會社及ヒ無名會社ノ創立證書ニハ左ノ書類ヲ添ユヘシ即チ



- 一 會社資本ノ申込及ヒ四分ノ一ノ拂込ヲ証スル公正証書ノ寫
  - 二 金圓ニアラサル差入物件及ヒ社員ノ爲メ特ニ約シタル利益ノ認諾  
ニ關シ相違ナキ旨ヲ証シタル總會決議ノ寫
  - 三 無名會社ニ付テハ株式申込人ノ姓名身分住所及ヒ其株式ノ數ヲ記シ適法ニ相違ナキ旨ヲ証シタル姓名簿
- 第二 會社創立証書及ヒ其附屬書類ノ拔書ヲ州ノ一新聞紙ニ廣告スヘシ  
但シ其新聞紙ニ掲載シタルハ新聞紙一枚ヲ以テ之ヲ証ス

●會社解散

會社ハ左ノ方法ニ因テ解散ス

- 第一 期限ノ終ルヲ
  - 第二 物件ノ滅尽若クハ事業ノ終成
  - 第三 會社ニ約シ未タ差入レサル差入物件ノ滅尽
  - 第四 社員中ノ一名死去、禁治産、破産
  - 第五 総社員ノ承諾
  - 第六 無期ノ會社ニ於テ一名又ハ數名其會社ヲ退去セント欲スルヲ
- 無名會社ノ解散ニ二個ノ特別ナル原因アリ

- 第一 會社資本ノ四分ノ三ヲ損失シタルヲ
  - 第二 社員七名以下ニ減シ一ケ年ヲ經過シタルヲ
- 無期會社ノ解散ト有期會社ノ解散トノ場合ノ別
- 有期會社ニ在テハ裁判所ニ出訴シテ後ヲ始メテ解散スルヲ得ル之ヲ訴訟ノ方法ニ因ル解散ト云フ
- 無期會社ハ出訴ヲ要セスシテ直ニ解散スルヲ得ル是レ當然解散ニ至ルモノナリ

●會社決算ニ關スル事

會社決算事務左ノ如シ

- 第一 「アクチャーフ」(貸)ヲ知ルヲ
- 第二 「パッシーフ」(借)ヲ定ムルヲ
- 第三 其貸借ヲ比較シ以テ社員間ニ分配ス可キ金額又ハ社員ヨリ辨償スヘキ負債額ヲ定ムル爲メ貸附金ノ取立及ヒ負債ノ償却ニ係ル事務ヲ處理スルヲ

●決算人ノ事

中決算人ハ社員中ヨリ之ヲ撰任シ又ハ會社ニ關係ヲ有セサル他人ヨリ之ヲ撰任スル



ヲ得ヘシ

決算人ハ左ノ二個ノ資格ヲ有ス

- 一 會社財産ノ受託人タリ其目錄ヲ調製セサル可ラス
- 二 會社ノ代理人タリ其決算ノ事務ヲ處辨セサル可ラス

●會社ハ一旦解散スルモ其決算ノ終結ニ至ルマテハ猶無形人タル會社ノ存續スルニ付左ノ結果ヲ生ス

- 第一 會社ノ債主ハ社員ノ私債主ニ先タテ會社資本ヲ以テ其負債ヲ辨濟セシムルノ權アリ

第二 會社ニ關スル訴訟アルキハ決算人ハ會社ヲ代理ス可シ

第三 會社ハ決算中ト雖モ猶破産ノ言渡ヲ受クルコアリ

第四 會社ノ不動産ハ決算中ト雖モ社員ノ婦又ハ社員ノ後見ヲ受クル幼者或ハ禁治産者ノ爲メ法律上ノ書入質トナラサルナリ故ニ其不動産ヲ獲得シタル者ハ之カ滌除ヲ爲スニ及ハス

第五 社員ノ一名末丁年者ナル相續人ヲ殘シテ死去シ爲メニ會社解散シタル場合ニ在テハ會社ノ債主ハ會社ニ關スル不動産ヲ賣拂フノ前先ツ未丁年者ノ不動産ヲ賣拂ハシムルヲ要セス

### ●時効

決算人ニアラサル社員及ヒ其寡婦相續人又ハ代權人ニ對スル訴訟ハ會社期限ノ終リタル日又ハ解散ノ時ヨリ起算シテ五年ヲ以テ經時効トス(商六四)而シテ其經時効ニハ左ノ件ヲ要ス

一 會社ノ期限ヲ記シタル會社創立契約書又ハ會社解散ノ證書ヲ公告スルヲ要ス

二 此等ノ法式ヲ行ヒタル後裁判上ノ訴ヲ以テ經時効ノ中斷ナキコトヲ要ス

商法第六十四條ノ規則ハ左ノ効果ヲ生ス

- 一 此五年ノ經時効ハ社員ニ對スル社外人ノ訴權ニノミ適用ス可キモノニシテ社員間ノ關係ニ適用ス可ラス

- 二 此經時効ハ會社解散ノ後ニ至リ始テ適用ス可キモノトス

- 三 此經時効ノ期限ハ會社存立期限ヲ記載シタル創立契約書ノ公告アリシキハ其期限ノ最終ヨリ起算ス可ク又會社解散ノ場合ニ於テハ其解散ノ證書ヲ公告シタル日ヨリ起算ス可クシテ是レ其最長ノ期限ナリトス



商事會社法問題

內田正雄著

- 第一問 會社トハ如何
- 第二問 會社契約ニ必要ナル條件如何
- 第三問 會社ト財產共有トノ差異如何
- 第四問 商事會社ト民事會社トハ何ヲ以テ識別スルヤ
- 第五問 商事會社ト民事會社トヲ區別スルノ利益如何
- 第六問 商事會社ノ無形人ヨリ生スル結果如何
- 第七問 諸般ノ會社ニ關シ商法典ノ改正ヲ加ヘタル重ナル法律如何
- 第八問 商事會社ノ種類如何
- 第九問 合名會社ノ一種特別ナル性質如何



第十問 合名會社ノ創立方法如何

第十一問 會社創立契約書ヲ以テ撰任シタル管理人ト會社

設立後ニ撰任シタル管理人トノ間ニ如何ナル差異アルヤ

第十二問 各社員ノ連帶ノ義務ヲ負擔スルハ如何ナル條件

ニ據ルヤ

第十三問 管理人自己ノ名ヲ以テ取引契約ヲ爲シタルキハ

社外人ニ於テ會社ニ對シ直接ノ訴權ヲ有スルヤ

第十四問 通常又ハ利益差金會社ノ特別ナル性質如何

第十五問 差金會社ノ創立方法如何

第十六問 通常又ハ利益差金會社ノ必要如何

第十七問 金主ハ社員ナリトノ規格ヨリ如何ナル結果ヲ生

スルヤ

第十八問 金主ハ商業ヲ爲ス者トセサルヤ

第十九問 利益差金會社ノ支配權ハ何人ニ屬スルヤ

第二十問 法律ニ於テ有限責任社員ヲシテ會社ノ事務ヲ管

理セシムルヲ許サ、ルノミナラス尙且管理人ノ代理トシ

テ之ヲ爲スヲ禁止シタル理由如何

第二十一問 干涉ノ場合ニ於テ有限責任社員ノ責任ニ關スル

千八百六十七年五月六日ノ新法ハ如何

第二十二問 株式會社トハ如何ナル者ヲ云フヤ

第二十三問 株式ト持分トノ間如何ナル差異アルヤ

第二十四問 株式會社ハ如何ナル利益アルヤ

第二十五問 株式ハ其体裁及ヒ賣買ノ点ニ於テ如何ニ之ヲ分

割スルヤ



第廿六問 記名株式ト無記名株式トヲ區別スル利益如何

第廿七問 株式ヲ有スル者ノ權利如何

第廿八問 息銀及ヒ潤益トハ如何

第廿九問 株主單ニ息銀ニ付テノミ權利ヲ有シ得ルヤ又ハ

潤益ノミニ關シテ權利ヲ有シ得ルヤ

第三十問 資本株式ノ反對ナル收買株式トハ如何

第卅一問 株式ト負債券トノ差異如何

第卅二問 株式ハ如何ナル時ニ在テ賣買取引ヲ爲シ得ル

第卅三問 株式差金會社トハ如何

第卅四問 株式差金會社ハ商法典ノ允許スル處ナルヤ

第卅五問 株式差金會社弊害ノ重ナルモノハ如何

第卅六問 株式差金會社ノ株式ハ無記名タルヲ得ルヤ

第卅七問 無記名株式ハ如何ナル弊害ヲ生スルヤ

第卅八問 無記名株式ニ關スル千八百五十六年ノ法律規定

ハ如何

第卅九問 千八百六十七年ノ法律頒布後ニ在テ如何ナル條

件ヲ以テ株式ヲ無記名トナスヲ得ルヤ

第四十問 株式差金會社ノ性質如何

第四十一號 株式差金會社ノ創立ヲ確定スルノ必要ナル條

件如何

第四十二問 株式差金會社ノ支配ニ關スル要件如何

第四十三問 株式差金會社ノ管理如何

第四十四問 監察人ノ構成及ヒ其本分如何



第四十五問 虛妄ノ配當ノ拂戻ヲ得ルノ場合及ヒ之ヲ爲スノ期限如何

第四十六問 監察委員ノ責任如何

第四十七問 株主總會ハ如何ナル時ニ在テ開會スルヤ

第四十八問 商法典ノ下ニ在テ無名會社ヲ組織スルノ條件如何

如何

第四十九問 有限責任會社ニ關スル千八百六十三年ノ新法如何

如何

第五十問 無名會社ノ創立ニ關スル千八百六十七年ノ法律ニ於テ許容シタル原則如何

律ニ於テ許容シタル原則如何

第五十一問 例外トシテ政府ノ允許ヲ要スル場合ハ如何

第五十二問 無名會社ノ性質如何

第五十三問 無名會社設立ノ方法如何

第五十四問 無名會社ノ支配ニ關シテハ如何ナル條件ヲ要スルヤ

スルヤ

第五十五問 株主總會ノ議決ノ方法如何

第五十六問 支配人ハ如何ナル保證ヲ要スルヤ

第五十七問 監察人ノ撰定及ヒ其本分ハ如何

第五十八問 株式差金會社ト無名會社トノ間ノ重ナル差異如何

如何

第五十九問 共分組合ノ性質如何

第六十問 共分組合ト他諸般ノ會社トノ差異如何

第六十一問 資本増減會社トハ如何ナル者ヲ云フヤ

第六十二問 資本増減會社ノ特別規則如何



第六十三問 會社ノ成立ヲ證スル證書ハ會社成立ノ公式ナルヤ又ハ證據ノ爲メナルヤ

第六十四問 千八百六十七年ノ法律ヲ以テ規定シタル諸般ノ會社ニ一定ノ公告規則如何

第六十五問 書記局ニ書類ヲ納ムルヲ及ヒ公告ノ法式ニ關スル制裁如何

第六十六問 會社ノ無効ハ社員ノ私債主ヨリ會社ノ債主ニ對シ言出ルヲ得ヘキヤ

第六十七問 會社ハ如何ニ解散スルヤ

第六十八問 無名會社解散ノ特別ナル原因如何

第六十九問 會社ノ決算人ノ性質如何

第七十問 分配申告ノ効驗ハ何レノ時ニ迄溯ルヲ得ルヤ

第七十一問 此問題ノ利益如何

第七十二問 社員間ニ生スル爭論ニ關スル裁判管轄ハ如何

第七十三問 社員間ノ爭論ハ必スヤ商事裁判所ノ裁定ヲ受ケサル可カラサルヤ

第七十四問 會社ノ事ニ關シ如何ナル訴權カ五年ノ經時効ヲ得ルヤ

第七十五問 會社ノ事ニ關シ五年ノ經時効ヲ設ケタル所以如何

第七十六問 商法第六拾四條ハ如何ナル効果ヲ生スルヤ

第七十七問 特別ナル五年ノ經時効ヲ中斷シ又ハ之ヲ停止スルノ方法如何



商事會社法答案

第一答 會社トハ二人以上利益ヲ分ツノ目的ヲ以テ物件ヲ  
共通ニ供スルヲ約スル所ノ契約ナリ(民法第千八百

第二答 會社ノ契約ハ凡ソ合意ノ有効ニ必要ナル諸條件(承  
諾能力法ニ適シタル目的及ヒ原因)ニ拘ハラス左ノ格段ナ  
ル條件ヲ具備スルヲ要ス

第一差入物件

第二博利ノ目的

第三共同利益

差入物件○此差入物件ハ金圓又ハ其他ノ財産ヲ以テシ又  
ハ勞力ヲ以テズルヲ得ヘシ(民法第千八百三十三條)又商業上ノ信用ヲ



差入物件ト爲スモ其効アリトス  
 物件ヲ會社ニ差入ル、ニ付テハ種々ノ方法アリテ或ハ全  
 所有權或ハ收實權或ハ收益ヲ差入ル、アリ  
 若シ社員確定シタル物件ノ所有權ヲ差入ル、事ヲ約シタ  
 ルキハ該物件ハ直ニ會社ノ獲得スル處トナリ其損失ニ於  
 テモ渾テ會社ノ負擔ス可キモノトス然レモ之ヲ差入タル  
 社員ハ恰モ賣主ト等シク其物件ノ奪取及ヒ隠レタル不良  
 ニ付擔保ノ責アリトス（民法第千八百四十五條）  
 若シ又確定物ノ收實權ヲ差入物ト爲スヲ約シタルキハ  
 其收實權ハ前同様會社ノ獲得スル處ナルモ損失ハ之カ區  
 別ヲナシ收實權ニ關シハ會社ノ負擔トシ虛有權ニ付テハ  
 其社員ノ負擔スル處トス然レモ其收實權ノ目的消耗品ナ

ルカ又ハ評價シタル物件ナルキハ其所有權ハ會社ニ歸ス  
 ルヲ以テ解社ノ場合ニハ其同一ノ物件又ハ其評價額ヲ會  
 社ニ於テ償還セサル可ラス故ニ其損失ノ負擔ハ會社ニア  
 ルナリ（民法第千八百五十一條）  
 又社員確定物ノ收益ヲ爲サシムルヲ會社ニ約シタルキ  
 ハ收益ノ債主權ヲ差入ル、モノニシテ之ヲ連續ス可キ差  
 入ト云フ此社員ノ義務ハ賃借人ニ對スル貸主ノ義務ト異  
 ナラサルナリ是故ニ會社ニ引渡サ、ル前ニ其物件滅盡シ  
 タルキハ未ダ差入物件アラサルヲ以テ會社ハ成立セサル  
 ナリ若シ引渡後ニ物件ノ滅盡シタルキハ既ニ成立セシ會  
 社解散ス可キモノトス何トナレハ其社員ハ最早引續テ差  
 入ヲ爲スヲ得サレハナリ而シテ物件ノ損失ハ其社員ノ負



擔トス（民法第一千八百六十七條）但シ此收益ノ差入ハ常ニ動産タルベシト雖モ收實權ノ差入ニ至リテハ其目的ニ從ヒ或ハ動産タリ或ハ不動産タルモノトス

差入物件ノ金圓ナルモ法律ハ二個ノ普通法ニ異ナル点ヲ規定セリ即チ○第一裁判上請求ノ日ニ非ラスシテ差入ヲ實行スベキ日ヨリ當然息銀ヲ拂フノ義務ヲ生ス○第二約束金額ノ利子ノ外差入ノ遲滞ニ依リ會社ニ損害アリシキハ尙之ヲ拂ハサルヲ得ス（民法第一千八百四十六條）蓋シ差入物ハ會社ノ爲ノ其目的ヲ達スルノ方法即チ博利ノ方法タルノ理由ヲ以テ此二個ノ變例ヲ説明スルヲ得ン

又差入ノ目的勞力ナルモ是又連續ス可キ差入物件トス而シテ社員ハ會社ノ目的ト爲シタル勞力ニ依リ躬ヲ得タ

ル利益ヲ會社ニ對シテ算計ス可キモノトス（民法第一千八百四十七條）

博利ノ目的○抑會社ノ目的ハ損失ヲ避クルニ非ラスシテ會社ノ資本即チ各社員ヨリ醜集シタル差入物ヲ利用シ以テ利益ヲ博スルニアリ是レ其相互保險ノ契約ト異ナル所ナリ保險契約ニ在テハ結約者ハ保險料ト稱スル差入物ヲ爲シ以テ損失ヲ免カレ其資産ヲ保全スルモノニシテ之ヲ増殖スルノ目的ニ非サルナリ

社員間利益ノ配當及ヒ損失ノ擔當ニ付テハ結約者ノ契約ヲ以テ定ムルカ否ラサレバ其指定シタル判斷人ノ定ムル處ニ據ル若シ斯ノ如キ契約ノアラサルモハ各社員差入物件ノ高ニ準ス可キ法律ノ規定スル處ナリ但シ勞力ヲ差入タル者ハ會社ノ資本中最モ寡小ノ差入物ヲ爲シタル者



ノ割合ニ均シトス（民法第千八百五十三條）及ビ第千八百五十四條  
 共同ノ利益○會社ノ契約ハ必ス共同利益ヲ主トスルヲ要  
 ス即チ各社員ハ會社資本ノ利用ヨリ生スル利益ニ付共同  
 社員ト共ニ其分配ヲ得ルノ希望ヲ有スルヲ必要トスルノ  
 意ナリ故ニ社員中ノ一名他ノ社員ヲ除キ獨リ利益ノ全部  
 ナヲ專得スルノ契約ハ其効ナシトス  
 又社員ノ一名會社ニ差入タル金圓又ハ財産ハ會社損失ノ  
 擔當ヲ全ク免カルベキノ契約モ亦法律ノ制禁スル処ナリ  
（民法第千八百五十五條）故ニ會社ハ甲乙二人集合シテ若干ノ金圓ヲ共  
 有シ交々之ヲ利用スルノ約束ト異ナリ特ニ利益共同ノ性  
 質アルモノトス彼ノ二人ノ如キハ共同ノ資本ヲ分離シ各  
 別ニ之ヲ利用スルカ故ニ其利益ヲ共ニセス甲ハ之ニ由リ

利益ヲ得ルアルモ乙ハ之ヲ得サルコアリ又數人資本ヲ共  
 有シ殘生者ハ先死者ノ持部高ヲ併有ス可キノ契約ヲ以テ  
 或立スル組合ノ一種ナルトシテ「ト」ト「ナ」ト「メ」ト會社ト別アルモ亦利  
 益ヲ共ニスルノ性質ニ由ルモノナリ

第三答 會社ニ欠ク可ラサルノ要件ハ以テ財産共通ト之ヲ  
 種別ス即チ

第一 會社ハ契約ニ依テ或立ツモノニシテ總社員ノ承諾  
 及ヒ能力アルヲ要ス  
 財産共通モ例ヘハ數人協同シテ一物ヲ買入ル、カ如キハ  
 即チ契約ニ出ルト雖モ通常ハ然ラサルナリ殊ニ數人ノ共  
 ニ相續スル場合又ハ數人一個ノ贈遺ヲ受クル場合ノ如キ  
 ハ皆契約ナクモ無能力者間ト雖モ共通ヲ生スルモノナリ



第二 會社ハ資本ヲ利用シ利益ヲ得ルヲ目的トシ力作産殖ヲ爲シ諸般ノ契約ヲ作成スルヲ以テ公益ヲ裨補スルモノナリ故ニ無期限ニテ之ヲ設立スルヲ得ヘシ  
 財産共通ハ共有ノ有様ヲ呈シ財産ノ融通及ヒ改良ニ妨碍ヲ成スヲ以テ法律ハ五年以上ノ時間共通ノ約ヲ爲スヲ禁シタリ

第三 一般ニ會社ノ契約ハ人ヲ察シテ結フモノニシテ互ニ相識リ相好ム者ノ間ニ成立ス故ニ社員中ノ一名死去シタルキハ死者ノ相續人ト會社ヲ繼續スヘキ特約ヲ除クノ外解社ス可キモノトス(民法第一千八百六十八條)又社員ノ一名總社員ノ承諾ナクシテ社外人ヲシテ已レノ位置ニ代ラシメ又ハ之ヲ社員トシテ已レニ附加スルヲ得サルモ單ニ已レノ組

合人ト爲スヲ得ヘシ(民法第一千八百六十一條)

財産共通ハ人ヲ察シテ設クルモノニ非サレハ共有者ノ一名死去スルモ其相續人ノ間ニ依然繼續シ加之共有者ハ自己ノ持部ヲ他人ニ讓渡スヲ得但シ他ノ共有者ニ於テ其部分ヲ償却シテ除斥スルハ格別ナリトス(民法第八百四十一條)

第四 會社ハ少クモ商事ニ關シテハ概シテ無形人ナリ  
 財産共通ハ更ニ人タルノ資格ナク共有者間ニ未分ノ状態アルニ過キス

第四答 凡ソ會社ノ民事又ハ商事タルハ其營業ノ性質如何ニアットス商法第六百三十二條以下ニ列記スル商業ヲ爲ス會社ハ之ヲ商事會社トシ商業ニアラサル營業ヲ爲ス片ハ之ヲ民事會社トス故ニ土地ノ購買小作地ノ耕耘又ハ或



ル技術ヲ行フ爲メニ組織シタル會社ハ民事會社ナリトス  
并ニ鑛山開鑿ノ爲メ設立スル會社（千八百十年四月廿一日ノ法律第三十二條）除  
水灌漑其他農業改良ノ爲メ組織スル水利土功會社モ亦民  
事會社ナリトス

會社ノ商事タルヤ將タ民事タル乎ヲ知ラシムルニハ其体面ニ  
據ラスシテ目的ニ着意セサル可ラス故ニ假令株式ヲ以テ  
組織シ無名會社又ハ差金會社ノ名稱アルモ商業ニアラス  
シテ民事ノ業務ヲ爲スルハ之ヲ民事會社ト決定セサルヲ  
得ス（千八百七十三年七月廿日大審院判決）

第五答 商事會社ト民事會社ヲ區別スルノ利益ハ左ノ諸多  
ノ点ニアリ

(一) 證據及ヒ公告○商事會社ノ構成ニ付テハ或ハ百五

拾フランク以下ト雖モ證書ヲ作り其他公告ノ式ヲ爲サ  
ル可ラス（但シ共分組合ハ此限ニアラス）○民事會社ニ  
在テハ其目的百五十フランク以上ナルキノ外證書ヲ作  
ルニ及ハス而シテ更ニ公告ノ式ヲ要スルヲナシ（民法第  
三十三條）

(二) 支配人ノ權限○商事會社ノ管理人即チ支配人ハ民  
事會社ノ支配人ニ比スルニ其權限一層廣大ニシテ各社  
員ニ一身上ノ義務ヲ負ハシムルヲ得○民事會社ノ支配  
人ハ特ニ權限ノ委任ヲ受クルニ非サレハ各社員ヲシテ  
他人ニ對シ義務ヲ負ハシムルヲ得ス（民法第千八百六十  
二條及ヒ第千八百

六十條）  
(三) 連帶ノ責任○商事會社ニ在テハ一身上ノ責任ヲ負



フ所ノ社員ハ會社ノ義務ニ付テハ連帶シテ其負ニ任ス  
 ○民事會社ニ於テハ連帶ノ明約アルニ非サレハ各社員  
 ハ連帶ノ責ヲ負擔セス（民法第千八百六十二條及千八百六十三條）  
 （四）支拂ノ停止○商事會社ニ於テ支拂ヲ停止シタルキ  
 ハ破産ノ處分ヲ受クヘシ○民事會社ハ此場合ニ於テ身  
 代限トナルヘシ

（五）裁判管轄○商事會社ニ於テ社員間ニ生シタル紛争  
 ハ往時判斷人ノ判決ニ任シタルモ千八百五十六年七月  
 十七日ノ法律以後ハ商事裁判所ノ管轄ニ屬セリ（民法第  
 十一條）○民事會社ニ在テハ斯ノ如キ爭論ハ民事裁判所ニ  
 於テ之レヲ審判ス  
 （六）經時効○商事會社ニ在テハ決算人ニアラサル社員

ニ對スル訴權ハ會社解散後五年ヲ以テ經時効ト爲ル○  
 民事會社ノ社員ハ通常ノ經時効（即チ三十年）ヲ主張シ得  
 ルニ過キス

（七）無形人タルト○商事會社ハ無形人ヲ組成シ社員ト  
 ハ全ク之ヲ區別ス（民法第五百二十九條訴訟法第六十九條第六）○民事會社ニ  
 至テハ其無形人タルヤ否ヤノ問題ハ大ニ討論ノ点ニ屬  
 ス

第六答 商事會社ノ無形人タルニ付テハ諸多ノ緊要ナル結  
 果ヲ生ス即チ左ニ

（一）會社ノ資本ハ社員ノ共有ニアラスノ會社タル無形  
 人ノ資産ナレハ其繼續間ハ仮令其資本ハ不動産ノミナ  
 リト雖モ社員ノ權利ハ動産タルノ權利ニ過キス故ニ不



動産實ニ會社資本ノ所有者ハ無形人即チ會社ニシテ社員ハ唯々會社ノ繼續間利益ノ配當ヲ受クルノ權ヲ有スルノミ而シテ其權利ハ動産ナリトス(民法第五百二十九條)故ニ社員ノ權利ハ夫婦ノ法律上共通財産ノ中ニ歸シ而シテ其婦又ハ其後見スル幼者又ハ禁治産者ノ法律上ノ書入質ハ會社ノ資本ヲ組織スル不動産ニ及ホス可ラサルモノトス

(二) 會社ノ資産ハ會社ノ債主ノ特種ノ抵償物ナリ故ニ其債主ハ會社ノ財産ニ關シ先取ノ權ヲ有シ社員一己ノ債主ト之ヲ共分スルノ義務ナシ而シテ會社ノ義務ヲ負フ處ノ社員一己ノ財産ニ付テハ之レト共分スルヲ得ヘシ

(三) 社員ノ一人第三者ニ對シ義務ヲ負ヒ而シテ第三者

モ亦タ會社ニ對シ義務ヲ負フト雖モ社員ハ會社ノ債主權中ニ在テ詰局已レニ販スヘキ持部ヲ以テ自己ノ負債ト相殺差引スルヲ得ス何トナレハ會社ノ債主權ハ現ニ無形人即チ會社ニ屬シ毫釐モ社員ニ屬スルモノニアラサレハナリ故ニ相殺ヲ爲ス能ハス相殺トハ甲乙互ニ權利者タリ義務者タル場合ニ限ルモノトス

(四) 訴訟ノ起リシ場合ニ在テ會社ニ對スル召喚狀ハ會社ノ本店若クハ暗ニ任所ノ撰定アリトシテ其支店ニ送達ス且ツ其訴訟ニハ各社員ヲ相手取り別々ニ召喚狀ヲ發セスシテ會社ノ支配人ノミヲ相手取ルモノナリ

(五) 商事會社其支拂ヲ停止シタルキハ破産ノ言渡ヲ受クヘシ



第七答 千八百八年ノ商法典ハ三種ノ商事會社ヲ認メタリ  
第十條 而シテ此三種ノ會社ハ各其元素ヲ異ニシ人ニ據ルアリ  
物ニ基クアリ或ハ人ト物トヲ以テ組織スルモノアリ即

子  
（一）合名會社○合名會社トハ各社員會社ノ取引契約ニ  
付キ自己ノ財産上連帶ノ義務ヲ負フ可キ組織ニシテ即  
チ人ノ會社ナリ

（二）無名會社○無名會社トハ各社員ノ義務唯々其差入  
物件ノ高ニ限ルモノニシテ即チ物件又ハ資本ノ會社ナ  
リ是レハ法典ニ依レハ政府ノ認可ヲ要スル者ナリキ

（三）差金會社○差金會社トハ社員中會社ノ義務ヲ連帶  
シテ負フ可キ一人又ハ數人ト他ハ各自差入高ノ外義務

ヲ負擔セサル者トヲ以テ成立チ其連帶義務アル者ヲ「コ  
ンマンギテール」（無限責任）ト稱シ差入高ノ外義務ヲ負ハサル  
者ヲ「コンマンギテール」（有限責任）ト稱ス此種ノ會社ハ一  
方ニハ人ノ責任アリ一方ニハ資本ノ責任アリテ人及ヒ  
物ノニ元素混同ノ性質ヲ有ス即チ人及ヒ物ノ會社ナリ  
又法典ニ依ルモ差金會社ハ持分又ハ株式ヲ以テ組成ス  
ルヲ得ヘキモノトス

以上三種ノ會社本体ノ外商法典ニハ猶一種ノ會社ヲ認  
メタリ即チ其分組合ト稱シ其性質能ク確定セヌシテ大  
ニ論難ヲ免カレサルモノナリ

商法典創立以來會社ニ關シ頒布セラレタル所ノ緊要ナル  
諾般ノ法律ヲ左ニ示サン千八百五十六年七月十七日ノ法



ヲ以テ以前重大ナル弊害ヲ成シタル株式差金會社ノ規則  
 ヲ始メテ規定シタリ  
 又同日ヲ以テ社員間ノ爭論ニ關シ商法典ニ規定シタル強  
 迫仲裁裁判ヲ廢シ商事裁判所ノ管轄ニ屬セシムルノ法律  
 ヲ頒布シタリ  
 千八百六十二年七月二日ノ法律ヲ以テ手形賣買世話人ノ  
 株ヲ益用スル爲メ差金會社ノ一種ヲ許可シタリ  
 千八百六十三年五月六日ノ法律ヲ以テ商法典第二十六條  
 及ヒ第二十七條ヲ改正シ會社ノ事務ニ關涉シタル金主ノ  
 責任ヲ限制シタリ  
 千八百六十三年五月廿三日ノ法律ヲ以テ政府ノ認可ヲ要  
 セサリシ無名會社ノ一種ナル有限責任ノ會社ヲ設立シタ

リ  
 千八百六十七年七月廿四日ノ新法ヲ以テ千八百五十六年  
 七月十七日ノ法ヲ廢シ更ニ株式差金會社ニ關スル規定ヲ  
 設ケ又「トナリーヌ」及ヒ生命保險會社ノ外諸般ノ無名會社  
 ニ關シ政府ノ允許ヲ受ルノ必要ヲ廢シ并ニ有限責任ノ會  
 社ヲ廢シ又新ニ資本増減會社ナル一種ノ會社ヲ創立シ終  
 リニ各種ノ會社ニ適施ス可キ公告ノ一定ノ成規ヲ設ケタ

第八答 現今商事會社ノ種類左ノ如シ

- 一 合名會社
- 二 差金會社
- 三 無名會社



四 共分組合

五 資本増減會社

第九答 合名會社トハ二人以上ニテ共ニ契約ヲ結ビ社名ヲ以テ商業ヲ爲スヲ目的トスルモノヲ云フ而シテ社名ハ會社ノ契約ニ附キ一身上且ツ連帶ノ義務ヲ負擔スル社員一同ノ名前ヲ集合スルモノナリ(第二十條 第二十條)社名ハ會社ノ名前ニシテ其手署ナリ社員ノ名前ニアラサレハ社名ノ中ニ加フルヲ得ス故ニビエールポール及ヒシヤツクノ三名共同シ一ノ合名會社ヲ組織セシニ社名ハビエールポール及ヒシヤツク會社ト稱シ又ハ單ニビエール組合ト稱スル如キモノニテ之ヲ以テ起業ノ目的ヲ指示スル所ノ店名ト混合ス可ラス

又社名ハ特ニ合名會社ニノミ固有ノモノニアラス差金會社ニモ亦之レアリ然レモ合名會社ニ特別ナルモノハ會社ノ負フタル義務ニ付社員一同無限且ツ連帶ニテ其義務ヲ負ハサルヘカラサルモ差金會社ニ在テハ無限責任社員ハ無限且ツ連帶ノ責任アリト雖モ會主ハ其差入高ノ外義務ヲ負フコトナシ故ニ合名會社ハ特ニ人ニ基クモノニテ專ラ社員ノ信用ニ依テ成立ツ會社ナリトス

(附言) 茲ニ社員ハ連帶義務ヲ免カル、ヲ得ルヤ否ノ疑問アリ此疑問ハ其事ヲ殊ニ約定シタルキハ勿論免カル、ヲ得ヘシト雖モ會社契約書ニ汎博ナル條疑ヲ以テ連帶義務ヲ負ハサルコト約定シ得ルヤ否ヤニ至テハ論議一定セズ甲說ニ曰「連帶義務ハ合名會社ノ契約ニ欠ク可



ヲサルモノナリト乙説ニ曰「連帶義務ハ唯々契約ノ性質ニ過キサレハ社員ハ連帶義務ヲ負ハサル旨ヲ約スルヲ得ヘシ然ルキハ其契約書ヲ公告シ以テ第三者ヲシテ錯誤ニ陥ルノ患ナカラシム可シト

而シテ社員ノ權利ヲ稱シテ持分ト云ヒ株式ト稱スルヲナシ（民法第五百二十九條）又社員中ノ一名總社員ノ承諾ヲ受ルニ非サレハ他人ヲシテ已レニ代ラシムルヲ得サルヲ以テ持部ハ他人ニ讓與ズルヲ得サルモノトス

然レモ又他人ヲシテ副員トスルノ權アリ而シテ其副員ヲ組合人ト稱シ自己一人ノ組合ニシテ會社ニ對シ直接ノ社員ニアラス又持部ハ總社員ノ爲メ同一ナラサルヲ得即チ甲ハ三分ノ一ヲ得乙ハ三分ノ二ヲ得ル如キトアリ

第十答 合名會社ハ公正証書又ハ私証書ヲ以テ證スル總社員ノ承諾ヲ以テ設立ス可シ其私証書ヲ以テセシニハ社員ノ利益各異ナル以上ハ其員數ニ從ヒ証書ヲ作ルヘシ

（附言）其証書ヲ要スルハ會社成立ノ公式ナルカ將タ証據ノ爲メナル乎又百五十「フランク」以下ニ於テモ猶之ヲ要スル乎ノ疑問ニ付テハ會社ノ証據ヲ説クニ際リ解釋スル處アルヘシ

第十一答 別段ノ契約ナキモハ各社員其會社ノ事務ヲ互ニ支配スルノ權ヲ附與シタルモノト看做ス可シ而シテ其各人ノ所爲ハ素ヨリ有効ノモノトス但シ他ノ社員ハ其一人ノ執行ヲヲ成就スル前ニ故障ヲ述フルノ權ヲ有ス可シ

（民法第千八百五十九條第一）



社員ハ通常其中一名若クハ社外人ヲシテ會社ノ事務ヲ扱  
 ハシム而シテ其ノ會社ノ支配ヲ委任スルハ或ハ會社創立  
 契約書ヲ以テスルアリ又ハ創立後ニ係ルモノアリト雖モ  
 何レノ場合ヲ問ハズ管理人ヲ撰任シタルモ之ヲ公告セ  
 サル可ラス(商法第四十三條第四十六條及七百八十八條)  
 會社ノ創立契約書ニ依リ撰任シタル管理人ハ即チ規則ニ  
 依テ撰定シタルモノニ其撰任ハ會社創立ノ一條件ナレ  
 ハ正當ノ原因ニ依リ裁判所ニ於テ解職ヲ言渡スノ外社員  
 ノ多數決ニ依ルモ之ヲ罷免スルヲ得ス(民法第一千三百四十四條)  
 之ニ反シ會社創立後撰任シタル管理人ハ普通ノ代理人ニ  
 過キサルヲ以テ社員ノ多數決ニ依リ隨意ニ更替罷免スル  
 ヲ得ヘシ(民法第一千八百五十六條)

管理者其權利ニ制限アラサルモハ會社ノ業務ヲ行フニ緊  
 要ナル契約ハ總テ之ヲ爲スヲ得ヘクシテ民事會社ニ比ス  
 レハ其權限廣大ナリ(民法第一千八百六十二條)殊ニ特別委任ヲ要セス一  
 般ノ委任狀ノミヲ以テ各社員ニ連帶ノ義務ヲ負擔セシム  
 ルモノナリ(商法第十二條)  
 然レモ會社ノ不動産ヲ賣却シ又ハ書入質トシ(千八百六十  
 十七日大)或ハ賣却ヲ爲スノ權限外ニ於テ和解ヲ爲シ仲裁  
 審院判決(或ハ)借入ヲ爲ス(民法第九百八十八條)ニハ總社員  
 ノ承諾ヲ得ルヲ要スヘシ

第十二條 斯ノ如ク各社員ヲシテ連帶ノ義務ヲ負擔セシメ

ソニハ商法第廿二條ノ明文ニ於テ左ノ條件ヲ要セリ

第一 管理人(若シ各社員管理者ナルモハ社員中ノ一名)



ノ爲シタル取引ナルコ  
第二 社名ヲ以テ爲シタル取引ナルコ或ハ然ラサルモ  
社外ノ権利者ニ於テ其契約ハ會社ノ爲メ爲シタ  
ルコヲ証明スルコ

第十三答 管理人私益ノ爲メ例ヘハ自己ノ負債ヲ償却セン  
爲メ社名ヲ使用シタルモ會社ハ其義務ヲ負擔セサルヘ  
カラス何トナレハ社外人ハ管理人ノ權ニ社名ヲ使用シタ  
ルカ爲メ自己ニ損失ヲ受ルノ道理ナケレハナリ然レモ各  
社員ハ管理人ニ對シ損害ヲ賠償セシムルノ權利ヲ有スヘ  
シ千八百三十六年五月十一日及千八百六十年二月二十一日大審院判決但シ社外人ノ要意ナ  
リシキハ此限ニアラス千八百五十二年一月二十四日大審院判決  
管理人又ハ其他ノ社員社名ヲ用井ス自己ノ名ヲ以テ取引

契約ヲ爲シタルモ其相手タル社外人ハ該契約ニ付キ利益  
ヲ得タル會社ニ對シ直接ノ訴權ヲ有スルヤ將タ其結約シ  
タル社員又ハ管理人ノ權利ヲ執行シテ民法第千百六十六  
條ノ間接ノ訴權ヲ有スルニ過キサル乎衆說ニ從ヘハ社外  
人ハ唯々其對手者ニ對シ直接ノ訴權ヲ有スルニ過キス會  
社ニ對シテハ自己ノ義務者ノ權利ヲ行ヒ間接ノ訴權ヲ有  
スルノミ故ニ自己ノ義務者ニ他ノ権利者アルモ是ト共  
分セサルヲ得ス  
管理人ニアラサル社員會社ノ名ヲ以テ契約セシ場合ニ於  
テ其契約會社ノ利益トナリタルモハ利益ノ限度内ニ於テ  
事務管理ノ訴權ヲ以テ訴ヲ受クルモノトス  
第十四答 差金會社トハ原語「コンマンダター」(無限責任社員)ト稱



シ一身上及ヒ連帶シテ義務ヲ負擔ス可キ一人又ハ數人ト  
 「コンマシヤテール」<sup>(金主)</sup>ト稱スル元金ヲ差入ル、一人又ハ  
 數人ト互ニ締結シタル會社ヲ云フ而シテ會社ノ事務ハ社  
 名ヲ以テ管理シ其社名ニハ無限及ヒ連帶ニテ義務ヲ負フ  
 可キ一人又ハ數人ノ名前ヲ用フ可シ<sup>(商法第二十三條)</sup>  
 此會社ハ人ト物トノ混同ニ依テ成ルモノトス故ニ社員中  
 二個ノ別アリ

第一 無限及ヒ連帶ニテ義務ヲ負フヘキ一人又ハ數人  
 ノ社員之ヲ「コンマシヤテール」<sup>(無限責任社員)</sup>ト云フ

第二 差入金高ノ外義務ヲ負擔セサル一人又ハ數人ノ  
 社員之ヲ「コンマシヤテール」<sup>(金主即チ有限責任社員)</sup>ト云フ<sup>(商法第二十六條)</sup>

若シ連帶シテ義務ヲ負フヘキ者數人アルキハ其數人皆會  
 社ノ事務ヲ管理スルト其中ノ一人之ヲ管理スルトヲ問ハ  
 ス此等ノ者ニ付テハ合名會社ナリト看做シ金高ヲ差加ヘ  
 タル數人ニ付テハ差金會社ナリト看做スヘシ<sup>(第二十四條)</sup>  
 差金會社モ亦社名ヲ有スト雖モ無限責任社員ノ名前ヲ以  
 テ大可シ金主ノ名前ヲ加フ可ラス<sup>(第二十五條)</sup>實ニ社外人ハ差  
 入物件ノ外義務ヲ負ハサル者ノ一已ノ約束及ヒ資力ヲ目  
 當ト爲サ、ルヲ要スレハナリ

第十五答 差金會社組織ノ方法ハ合名會社ト同一ニシテ公  
 正証書又ハ私証書ヲ以テスルモノトス而シテ私証書ヲ以  
 テスル場合ニハ利益ヲ異ニスル者ノ員數ニ應シ証書數通  
 ヲ作ルヘシ<sup>(商法第三十條及第四十一條)</sup>



第十六答 差金會社ハ古來行ハル、モノニテ指揮ノ契約ナルモノヲ以テ其出處トス指揮ノ契約トハ甲者ヨリ乙者ニ金額若クハ貨物ヲ給シ以テ商業ヲ爲サシメ其利益ヲ共分シ而シテ甲者ハ其差入高ノ外義務ヲ負フヘカラサルノ契約ヲ云フ抑佛國古法ニ於テハ金銀貸借ニ利息ヲ附スルヲ禁シタル故差金會社ハ資本ヲ益用シ以テ定期ノ利ヲ得ルノ方法ニシテ當時最モ必要ナリ現今ニ至テモ猶ホ商人タルヲ得サル者又ハ商人タルヲ欲セサル者ヲシテ其資本ヲ益用セシムルノ便利アリ加フルニ資本家ノ爲メニ有限ノ責任ヲ以テ無限ノ利益ヲ博スルノ便利アリ又無限責任社員ニ於ルモ利スル所尠カラズ何トナレハ金主ハ同社員ニシテ通常ノ貸主ニアラサルヲ以テ利息ヲ附セス恰カモ

無利息ノ資本ヲ利用スルノ便アレハナリ

第十七答 金主ハ之ヲ差金人ト稱スルモ其實眞ノ社員ナル

事ハ法律上諸多ノ條項(第二十五條ヨリ第二十七條ニ至ル)ニ於テ認ムルルニシテ左ノ結果ヲ生ス

第一 無限責任アル管理人ト契約ヲ爲シタル會社ノ債

主ハ金主ヲシテ其差入物ヲ爲サシムル爲メ之ニ

對シ直接ノ訴權ヲ有ス(千八百六十一年六月廿日大審院判決)

第二 無限責任社員ト有限責任社員即チ金主トノ間ニ

生シタル爭論ハ千八百五十六年ノ法律頒布已前

ハ判斷人ノ審判ス可キモノタリシモ同法ヲ以テ

社員間ノ爭論ニ付強迫仲裁裁判ヲ廢シタルヲ以

テ以後ハ之ヲ商事裁判所ノ管轄トス



第三 金主ハ通常貸主ト異ナリ會社純益ノ配當ヲ受ケ  
 管理人ノ所務ヲ視察監督スルノ權利ヲ有シ而シ  
 テ會社ノ繼續間ハ自己ノ差入物件ヲ要求スルヲ  
 得ス又解社ノ時ニ於テモ差入物件ヲ取還ス爲メ  
 會社ノ債主ト共ニ權利ヲ行フヲ得ス何トナレハ  
 其差入物件ハ會社ノ資本ニシテ會社ノ債主ノ抵  
 償物タレハナリ

第十八答 差金會社ノ金主ハ眞ノ社員ナリト雖モ其社員タ  
 ルノ一事ヲ以テ未ダ商人ナリトス可ラス何トナレハ商人  
 タランニハ平常職業トノ商業ヲ爲スヲ要スレハナリ然ル  
 ニ一般ノ說ニ金主ハ其約諾シタル差入物件ヲ差入ル、ノ  
 義務アリ而ノ其義務ハ商業ナルカ故ニ金主ハ差入高ノ義

務者トノ會社ノ債主ニ對シ商事裁判所ノ管轄ニ服スルモ  
 ノト決セリ

第十九答 凡ソ事務ヲ處理スルハ責任ヲ負擔スル者ニ屬ス  
 可キハ自然ノ定理ナリ故ニ差金會社ハ必スヤ無限責任社  
 員一同又ハ其中ノ一名若クハ數名ヲシテ其事務ヲ管理セ  
 シムルヲ要ス然リ而シテ有限責任社員ハ毫モ管理ニ干與  
 スルヲ得ス其理由左ニ

- 第一 有限責任社員ハ限リアル責任ヲ有シテ限リナキ  
 利益ヲ得ント希望シ危險ノ事業ニ流カレ易キ事
- 第二 社外人ハ其直接ニ取引契約ヲ爲ス社員ニ一身上  
 無限ノ責任ヲ有スルモノト信シ屢々錯誤ニ陥ル  
 コトアリ



第二十答 法律ハ有限責任社員ニ管理者ノ代理人トシテモ  
 會社ノ事務ヲ支配スルヲ禁シタリ蓋シ此場合ニ於テハ  
 第三者ハ代理ヲ與ヘタル無限責任社員ノミニ信用ヲ置ク  
 可クシテ錯誤ニ陥ルヲ得スト雖モ有限責任社員ヲシテ代  
 理セシムルキハ金主ハ公衆ニ對シ無資力ナル者ヲ示シ以  
 テ管理人ト爲シ其代理トシテ經々ニ危險ノ事業ヲ爲スヲ  
 得ヘク而シテ此責任ハ無資力ノ管理人ニ皈シ自身ハ差入  
 物ヲ失フニ過キサレノ弊アルカ故ナリ  
 商法典ハ此点ニ付キ太々嚴酷ニシテ啻ニ有限責任社員管  
 理上ノ所爲ニ干涉スルヲ制禁スルノミナラス尙代理ノ任  
 ヲ受ケタルキト雖モ會社ノ雇人トナリテ諸般ノ事務ヲ扱  
 フヲ禁シ若シ之ニ違背スルキハ有限責任社員ハ會社諸

般ノ取引契約及ヒ負債ニ付テ無限責任社員ト齊シク連帶  
 シテ義務ヲ負擔ス可キ者トセリ

第二十一答 千八百六十三年五月六日ノ法ハ商法典第二十  
 七條及ヒ第二十八條ヲ改正シ其禁ヲ制減シ漸々寬裕ナル  
 制裁ヲ設ケタリ即チ左ノ二個ノ新法ヲ包含ス

第一 第二十七條ニ所謂有限責任社員會社ノ雇人トナ  
 リ其事務ヲ扱フヲ禁ヲ解キ而シテ代理ヲ以テスルト  
 雖モ事務ヲ管理スルノ禁ハ依然之ヲ維持シ而シテ第二  
 十八條末項ニ於テ勸告。見。監。督。視。察。ハ有限責任社員ノ  
 責任ヲ生セサルヲ定メタリ蓋此法ハ以前ノ裁判例ヲ  
 採用シタルニ過キサレナリ  
 第二 事務ヲ管理ス可テサルノ禁ヲ犯シタル場合ニ於



テ商法典ノ必ス負擔ス可キ一般ノ責任ニ代ヘ有限責任社員ニ對シ左ノ二個ノ責任ヲ規定セリ即チ

一 必至ノ責任○此責任ハ自己ノ行ヒタル管理ノ所

爲ヨリ生スル義務ノミニ關スルモノナリ

二 適宜ノ責任○此責任ハ所爲ノ多少ト輕重トニ依

リ會社ノ義務ノ全部又ハ一部ニ關スルモノナリ

第二十八條 第一項

而シテ此第一ノ責任ハ裁判所ニ於テ必ス言渡サ、ルヲ得

サルモ第二ノ責任ニ付テハ之ヲ言渡スヲ得ヘク專ラ其認

定ニ任シタリ

爰ニ注意ス可キハ有限責任社員カ會社ノ事務ヲ管理シタ

ルハ其權利ナクシテ之ヲ爲シタルヤ將タ代理ノ任ヲ受ケ

タルニ依ルヤヲ識別スルノ利益アルコト是ナリ第一ノ場合

ニ在テハ其社員獨リ義務ヲ負擔シ第二ノ場合ニハ其委任

ヲ爲シタル管理人モ共ニ其所爲ニ付責任ヲ負フ可キモノ

トス

然リ而シテ有限責任社員ニ對スル此制禁ハ獨リ會社ノ代

理トナリテ社外人ト取引シタル所爲ニ適用ス可クシテ自

己ノ利益ノ爲メ會社ト爲シタル所爲ニ適用ス可ラス但シ

會社ト賣買ヲ爲シ又ハ之ニ資本ヲ貸附ケ或ハ番頭ノ資格

ヲ以テ商店ニ使役セララル、ハ妨ケナシトス

第廿二答 株式差金會社及ヒ無名會社ハ之ヲ株式會社ト稱

シ合名會社及ヒ通常差金會社ヲ「持部」會社ト云フ

而シ其株式差金會社及ヒ無名會社ニ於テ各社員ノ持部ヲ



稱シテ株式ト云ヒ合名會社及ヒ差金會社ニ在テハ之ヲ持部ト稱ス

第廿三答 夫レ持分ト云ヒ株式ト稱スルモ何レモ各社員ノ持部ヲ示シ會社ノ繼續間ハ動産タルノ權利ヲ作成スルモノナリ且ツ各社員ハ會社ノ繼續間利益ノ分配ヲ受ケ又解社ニ至テハ會社ノ資本中ヨリ已レノ持部ヲ要求スルヲ得ヘキノ權利ナリ是レ其相同シキ所ナリ然レモ株式ト持部トハ諸多ノ差異アリ即チ

○第一 持部ハ人ノ觀察チ主トスルモノニシテ讓渡ス可ラサルモノトス約言スレハ總社員ノ承諾アラサレハ各社員ハ他人ヲシテ自己ニ代ラシムルヲ得スト云フノ意ナリ然レモ組合人ヲ出スヲ得尤モ組合人ナル者ハ社

員トシテ代ルモノニ非サレハ會社ニハ關係チ有セサルナリ民法第一千八百六十一條之ニ反シ株式ハ人ヲ主トスルモノニアラサレハ何人ニ屬スルモ妨ケナク會社資本ノ一部分タルニ過キスシテ固ヨリ讓與シ得ヘキ性質チ有テ故ニ其株式チ有スル者ハ自己ノ隨意ニ其權利チ他人ニ讓與スルヲ得ヘシ而シテ其之ヲ讓受ケタル他人ハ社員タルノ資格チ有ズヘキモノトス

○第二 持部ハ之ヲ讓與シ得ル場合ト雖モ商法上ノ手續チ以テスルヲ得ス民法ノ規定ニ循ヒ義務者ニ通知チ爲シ又ハ義務者公正ノ証書チ以テ承諾スルニアラサレハ讓與チ爲スヲ得ス之ニ反シ株式ハ商法上ノ手續即チ其記名ナルト命令ナルト又ハ無記名ナルトニ從ヒ或ハ帳



面書換或ハ裏書或ハ單ニ相互ノ受授ヲ以テ其所有權ヲ移スコトヲ得ル

○第三 持部ハ社員ノ割前ニシテ各社員ノ爲メ一樣ナラス例ヘハ甲ハ十分ノ一ヲ得乙ハ十分ノ三ヲ得ルカ如キ是ナリ而シテ株式又ハ小割株式ハ例ヘハ百フランク若クハ五百フランクトシ一定ノ金額ヲ有シ常ニ均一ナルモノトス

第廿四答 斯ノ如ク株式會社ハ株式ヲ公ケニ募集スルコトヲ讓與シ若クハ賣買シ得ルコト資本ヲ同價ニ分割スルコト其不可分ナルコト等多少本然ノ性質ヲ具備シ自ラ他ニ異ナル處アリ

(附言) 此ニ記スル處ノ性質ノ一二ハ「アンテレ」會社ニ

於テモ偶々見ル處ナリ故ニ會社ノ契約ニ於テ各社員ノ持部ノ讓渡ヲ許スヲ得ヘシ商法第二條第四十七條及ヒ千八百六十七年ノ法律(第五十七條及ヒ第六十一條)ニ社員ノ更迭ヲ公告ス可キヲ命シタルヲ以テ見ルニ「アンテレ」會社ノ社員ハ他人ヲシテ自己ニ代ラシムルヲ得ルコトヲ想像シタルナラン何トナレハ株式會社ニ在テハ株主ノ氏名ハ會テ公告スルコトナケレハナリ又商法第九十一條ニ於テ持分ハ之ヲ簿冊ニ登記シタル上讓與スルヲ認メタリ

又之ニ反對シテ此性質中株式會社ニ見サルモノアリ即チ株式ヲ分割シ其價額ノ一定ナキコト又株式讓渡ノ許可ナキコトアリ或ハ之ヲ停止スルアリ然リト雖モ此等ハ偶



然ニシテ株式會社ノ常体ト言フヘキモノニアラス  
 株式會社ハ普通其組織ニ要スル処ノ條件ヲ具備スルニ  
 於テハ公然認ム可キモノトス  
 會社資本ヲ株式ニ分割スルハ大ニ利益アリ元來株式會社  
 ハ人ヲ基本トセサル故株主ノ死去、禁治産、破産又ハ民事上  
 身代限トナルモ解散スルコトナシ是ヲ以テ株式會社ハ永遠  
 ノ大事業ニ従事スルヲ得加フルニ其株式ハ之ヲ讓與シ賣  
 買スルヲ得レハ株主ハ隨意ニ退社スルヲ得ヘキ便アルヨ  
 リ倍々世人ノ望ム処トナレリ蓋株主ハ利益ヲ博セシ爲メ  
 時機ニ投シテ其株式ヲ讓渡シ或ハ金圓ノ必要アル場合ニ  
 際シ容易ニ之ヲ賣却スルヲ得若シ又現時賣却スルノ不利  
 益ナルヲ認メタルハ之ヲ質入トシ以テ金圓ヲ借入ル、

ヲ得ベシ

第廿五答 株式ハ其体裁ト賣買トノ点ニ付左ノ如シ區別セ

リ即チ

- 一 無記名株式
- 二 記名株式
- 三 命令株式

無記名株式トハ其額面ニ株主ノ氏名ヲ記載セズ何人タリ  
 トモ之ヲ所持スル者ニ其金額ヲ拂渡ス可キモノナリ而シ  
 テ其之ヲ讓渡スニハ其証書ヲ手渡スルモノナリ實際株式  
 ハ無記名ノ体裁ニ依ルモノ多シ  
 記名株式ハ株主ノ氏名ヲ記載スルモノニシテ會社ノ簿冊  
 ニ登録シ以テ其所有主タルコトヲ定ム而シテ之ヲ讓渡サン



ト欲スルハ其旨ヲ會社ニ届ケ之ヲ其簿冊ニ記入シ而シテ其讓渡ヲ爲ス者又ハ其名代人ノ姓名ヲ手署ス可シ（第三條）此帳面書換ヲ稱シテ現實ノ轉移ト云フ是眞ニ所有權ヲ（第十六條）移轉スル故ナリ

（附言）移轉ニ體裁命令擔保ノ三種アリ體裁ノ移轉トハ名前人死後其相續人ノ名ヲ以テスルヲ云フ其體裁移轉ト稱スルハ法式ノ單一ナルヲ以テナリ  
命令移轉トハ手形賣買世話人ヲシテ依頼者ノ氏名ヲ漏洩ス可ラサル義務ヲ負荷セシメタルニ由ルモノニシテ賣主ト該世話人トノ間ニ爲スモノヲ云フ但シ手形賣買世話人ハ買主ノ爲メ其名義ヲ以テ株式ヲ移轉スル爲メ賣買ノ介入者ナリ

而シテ此第一ノ移轉即チ賣主ト手形賣買世話人トノ間ニ爲ス移轉ハ現實ノ移轉ナキヲ以テ納税ノ義務ヲ免カルベシ擔保ノ移轉トハ名前人於テ其株式ヲ質入シントスル時ニ爲スモノヲ云フ（商法第九條）

命令株式トハ所有主ノ差圖シタル者ニ拂フ可キ旨ヲ記載スルモノナリ而シテ其讓渡ハ例ヘハ某甲ノ指圖ニ依リ仕拂フ可シト云フ如キ語ヲ手形ニ裏書シ以テ爲スベキモノトス此體裁ハ太々稀レナリ

第廿六答 抑無記名株式記名株式ハ各利害相半ハスルヲ以テ諸多ノ点ニ付之ヲ區別スルノ要アリ

（一）無記名株式ノ讓渡ハ簡易ニ其株式ノ手渡ヲ以テスルモ記名株式ニ至テハ之ニ反シ其讓渡ニ付テハ帳面書換



ノ法式ニ據ラサルヲ得サルナリ  
 (二) 無記名株式ハ單ニ之ヲ手渡スノ一事ヲ以テ讓渡スルヲ得ル故ニ所有權ノ移轉ヲ了知スル能ハスシテ幾數回モ取引ノ目的物タルヲ得故ニ所有權移轉ノ稅ハ其移轉毎ニ徵收スルヲ得サレハ之ヲ年稅ニ改メ前年ノ平均相場ニ從ヒ株式價額百フランクニ付二十サンチムヲ利子券ノ金額中ヨリ差引クイニ定メタリ  
 記名株式ノ讓渡ハ帳面書換ヲ以テシ其移轉毎ニ帳簿ニ登記スルヲ以テ取引實價ノ千分ノ五ノ移轉稅ヲ徵收スルモノトス

(附言) 此移轉稅ハ無記名ヲ記名ト改メ又ハ記名ヲ無記名ト爲スキモ亦齊シク收納ス可キモノナリ但最年

中株式ノ平均相場ニ依リ徵收ス

此區別アルヨリ株式ヲ貯蓄シ永遠ニ其利益ノ配當ヲ目的トシ時機ニ投シ之ヲ賣却シテ利益ヲ僥倖セントノ望ヲ懷カサル者ハ皆記名株式ヲ望ムヘシ蓋シ年稅ノ義務ナキカ故ナリ又之ニ反シ株式ノ昂低ニ乘シ機ニ投シ賣買シ以テ利益ヲ僥倖セントスル者ニ在テハ無記名株式ヲ希望ス可シ蓋シ其株式ノ移轉ノ幾數回ニ涉ルモ唯々年稅ヲ納ムルノミナレハナリ

(三) 無記名株式ハ原則於テ有形動產ト看做シ動產ニ付テハ現ニ之ヲ有スルヲ以テ其所有權ノ證書ヲ有スルニ等シキ効アリトノ規則ヲ適用ス故ニ遺失盜難ノ場合ノ外正當名義ニ依リ善意ヲ以テ之ヲ受得シタル者ハ所有者



ヨリ之レカ取戻ノ請求ヲ受クルノ恐アラサルナリ記名株式ハ之ニ反シ通常債主權ト看做スカ故之ヲ有スル者ハ動産ニ付テハ現ニ之ヲ有スルヲ以テ其所有權ノ證書ヲ有スルニ等シ云々ノ原則ヨリ生スル即成時効ヲ以テ自己ニ對抗セラル、ノ恐レ莫シ

(四) 株式ノ記名無記名ヲ區別スルハ遺失盜難ノ場合ニ在テ其利益最モ大ナリトス即チ無記名株式ノ紛失ニ在テハ其所有主ハ殆ント回復ス可ラサルノ損害ヲ受クルト雖モ記名株式ニ在テハ毫モ是等ノ患ヒ莫カルヘシ

第廿七答 株主ノ權利ハ其株式ヲ得ルノ方法ト之レカ所有主タルカ爲メ差入ル、金額ノ多寡ニ從ヒ廣狹ノ差異アリ通常株主ノ權利ハ會社ノ繼續間ハ其年々ノ利益ヲ得又解

社ノ時ニ於テハ其資本ノ分配ヲ受クルニ在リ

第廿八答 會社ニ於テ年々爲ス處ノ配當ハ息銀券及ヒ潤益券ヲ以テシ息銀券ハ株金ノ百ニ付三四五ヲ受ケ潤益券ハ息銀ノ外純益ノ多寡ニ從テ配當ヲ受クルモノナリ而シテ其息銀券ハ六ヶ月ノ後ニ拂出スチ普通トス蓋シ息銀ハ各株主ノ據テ以テ需要ヲ充タスノ收額ナレハ長ク之ヲ延引スルヲ得サルカ爲メナリ潤益券ハ年末ニ至テ收益ノ精算ヲ遂ケタル上拂出スモノナリ

第廿九答 株主ニシテ單ニ息銀ノミヲ得ルノ權ヲ有スル者アリ或ハ潤益ノミノ權ヲ有スル者アリ株主ニシテ息銀ノミニ權利ヲ有スル場合尠ナシトセス即チ鐵道開鑿事業ノ如キ多年ニ涉リ巨多ノ費用ヲ要スル時



ニ在テハ數年間各株主ハ單ニ息銀ノミチ受クルノ權チ有  
 スルニ過キサル事チ約束スルヲ往々アリ又會社ノ事業繁  
 昌スルニ付範圍チ擴充セシメカ爲メ新株式チ發行スル時ハ  
 其株式世人ノ望ム者多ク舊株式ヨリモ高價ニ之チ發行ス  
 ルヲアリ然ルキハ新株式ノ申込人ハ若干時間其金圓ニ付  
 息銀ノミチ得ヘキヲ約スルチ得加之最初ヨリ會社ニ信  
 用チ置キ其資本チ失フノ危険チ侵シタル舊株主ノ爲メ新  
 株券チ貯蓄スルヲ屢々アリ尤モ舊株主カ新株式チ得ルノ  
 特權チ利用シタルキハ之チ指示シメ爲メ其株式ニハ標印  
 チ捺スルモノトス  
 之ニ反シ株主潤益ノミニ付權利チ有スルハ左ノ場合ノ如  
 シ即チ會社其資本チ減殺スルノ目的ニ出テ抽籤ノ方法チ

以テ株式ノ一部チ拂戻ス爲メ毎年其利益ノ中ヨリ若干高  
 チ引除クヲアル可シ斯ノ如クニ當籤シ拂戻シタル株式  
 ハ最早息銀チ得ルノ權チカル可シ何トナレハ該株主ハ其  
 拂戻チ受ケタル資本チ他ニ活用シテ利子チ生セシムルヲ  
 チ得ルチ以テナリ然レモ潤益チ得ルノ權利ハ依然失ハサ  
 ルモノナリ何トナレハ資本チ會社ニ差入レ之チ失フノ危  
 險チ侵シタル株主カ會社ノ繼續間其利益ノ配當チ得サル  
 ニ至ルハ不正ニ失スレハナリ

第三十答 收實株式トハ抽籤ノ方法ニ由リ株金拂戻チ爲シ  
 タル株式チ云フモノニシテ資本株式ニ反スルノ稱ナリ收  
 實株式ハ其株式チ生シタル資本ノ已ニ會社中ニ存セサル  
 ノ故チ以テ其息銀チ得ルノ權チキモノナリ然レモ其株主



ハ依然社員タル資格ヲ失ハスシテ利益ノ配當ニ與カリ及  
 ヒ潤益券ヲ得ヘク尙且解社ニ際シ他ノ株式ノ資本ヲ拂戻  
 シタル後會社資本ノ分配ヲ得ント請求スルヲ得  
 又株主ニシテ息銀及ヒ潤益ヲ得ルノ權ヲ有シ而シテ解社  
 ノ後會社資本ノ一部ヲ請求スルノ權ナキモノアリ是レ其  
 勞力ノミヲ差入タル者ノ情況ヲ表スルモノニシテ即チ會  
 社ノ繼續間ハ息銀及ヒ潤益ノ配當ヲ得ルモ會社ノ解散ニ  
 至テハ自由ヲ回復シテ差入物件ノ自己ニ復歸スルヲ以テ  
 毫モ會社資本ニ付請求スルヲ得ス但之ニ反スル契約アル  
 件ハ格別ナリ  
 斯ノ如クナルヲ以テ株主ノ權利ニ付テハ資本株式收買株  
 式勞力株式ノ別アリ資本株式ハ會社ノ利益ヲ全ク占ムル

(息銀潤益ヲ併セ)得ヘキ者ヲ云フ)ヲ得收買株式ハ息銀ヲ得ルノ權ヲ與ヘス  
 勞力株式ハ原則ニ在テハ會社資本ノ分配ヲ得ルヲ得ス  
 (附言) 資本株式トハ會社ニ差入若クハ差入ント約シタ  
 ル資本ノ代リニ得タル株式(所謂資本株式)又ハ金圓ニアラサル  
 差入物ヲ爲シタル爲メ發起人ニ屬ス可キ株式(起業株式)等ヲ  
 云フ

第卅一答 夫レ株式ハ之ヲ負債証券ト混同ス可ラズ負債証  
 券ナル者ハ會社又ハ市府ヨリ公債ヲ募リ發行スルモノニ  
 シテ此二個ノ間諸多ノ差異アリ  
 (第一) 株式ハ社員ノ持部ニシテ其之ヲ所有スル者ハ即チ  
 社員ナリ○負債証券ハ會社ニ對スル債主權ニシテ之ヲ有  
 スル者ハ即チ貸主ナリ



(第二) 株式ハ其利益ニ多少ノ増減アリ○負債証券ハ一定ノ利子ヲ得ルノ權ヲ附與ス

(第三) 株式ハ會社資本ノ一部ニシテ即チ資本ノ元素ナリ○負債証券ハ會社ノ負債ニシテ即チ會社負債ノ元素ナリ故ニ株式ハ負債証券ノ抵償ニシテ負債証券ヲ有スル者ハ常ニ各株主ニ先テ其支拂ヲ受ク可シ何トナレハ各株主ハ負債証券所有者ノ義務者タレハナリ

(第四) 株式ハ會社資本ノ多少ニ從ヒ或ハ百「フランク」或ハ五百「フランク」ナリ○負債証券ハ通常五百「フランク」ノ價額ナリ

(第五) 株主ハ總會議ニ參與シ會社ノ利益ニ關シ發議スルノ權利アリ○負債証券持主ハ其會議ニ參スルノ權ナシ

(第六) 株主ノ株式加入ヲ申込タル所爲ハ商業トス故ニ之ニ關スル爭論ハ商事裁判所ノ管轄ナリトス○負債証券ヲ申込ム者ハ貸借ヲ約スル者ニシテ民事裁判所ノ管轄トス又負債証券ハ株式ト齊シク無記名アリ記名アリ又命令ナルアリ

第卅二答 株式又ハ小割株式ハ各株主ニ於テ申込高ノ四分ノ一ヲ拂込タル後ハ商法ノ手續ニ依リ賣買スルヲ得ヘシ(千八百六十七年ノ法第二條)然レモ其未タ四分ノ一ヲ拂込マサル前ト雖モ已ニ拂込タル金高ノ請取書ハ民法ノ手續即チ遺物相續遺囑ノ贈遺生存中ノ贈與又ハ債主權移轉ニ關スル道則ニ循フ可キ讓與ト同一ノ方法ヲ以テ讓渡スヲ得ヘシ

第卅三答 株式差金會社トハ差金ノ資本ヲ株式ニ分割シタ



ル所ノ會社ヲ云フ株式差金會社ハ通常差金會社ト差異アリトイヘル其總則ニ至テハ亦之ヲ適用ス可ク而シテ他ニ特別ノ規則アリ通常差金會社ハ自由ニシテ規則ニ管制セラル、処ナキモ株式差金會社ニ至テハ弊害ノ生シ易キヲ以テ嚴正ナル規則ヲ設ケタリ

第卅四答 商法ニ於テハ株式差金會社ハ其資本無名會社ト

同シク之ヲ株式ニ分割スルヲ得ヘシト云ヒ(第三十條)以テ株式差金會社ヲ認許スルニ止マレリ

第卅五答 株式差金會社ハ創設以來暫時ニシテ非常ノ隆盛

ヲ致シタルモ忽チ弊害百出セリ今之ヲ例センニ發起人ハ金圓ニアラサル物件ヲ差入レ極メテ高價ニ之ヲ評定セシメ其價直相當ノ株式ヲ受得シ更ニ之ヲ賣却シテ莫大ノ利

益ヲ博シ又ハ資本ヲ少額ノ株式ニ細分シ以テ貧民ノ加入シ得ヘキ便ヲ與ヘ而シテ過稱ノ廣告ヲ以テ其加入ヲ促カシ又或ハ株式加入ノ申込資本ノ全部ニ及ヒ又ハ其過半ハ會社ニ拂込アリタリト詐偽ヲ公言シ或ハ不充分ナル資本ヲ以テ會社ノ事業ニ着手シ世人ヲ誑惑シ信用ヲ賣ル爲メ故ラニ資本ヲ以テ利益ノ配當ヲ爲ス等奸策至ラサルナキヨリ忽チ奇禍ヲ生シ加之申込人ハ往々破産ヲ以テ其輕信ノ過ヲ拂フニ至リタリキ

是ヲ以テ千八百五十六年七月十七日ノ法及ヒ其後之ヲ改正シタル千八百六十七年七月二十四日ノ法ヲ以テ漸次ニ經驗上發見シタル種々ノ弊害及ヒ危險ヲ豫防シ株式差金會社ノ規定ヲ制定シタルモ千八百六十七年ノ法ハ前法ノ



嚴ナルニ代へ稍寛大ナルヲ覺ヘタリ

(附言) 以上云フ處ノ種々ノ弊害ハ曾テ無名會社ニ在テハ憂フルニ足ラサリキ何トナレハ商法典ニ在テハ此種ノ會社ハ政府ノ允許ナクシテ創設スルヲ得サリキ然ルニ其允許ヲ要セス自由ニ設立シ得ルニ至リシ以來ハ株式差金會社ト等シク規則ヲ成立セラレタリ

第卅六答 商法第三拾八條ニ於テ差金會社ノ資本モ亦無名會社ノ資本ト同シク株式又ハ小割株式ニ分割スルヲ得ヘキトナリ規定シ更ニ制限スル處ナキヲ以テ無記名株式モ亦無名會社ニ對スルト等シク認許シタルモノトス

第卅七答 株式差金會社ニ在テ無記名株式ハ多小弊害ヲ免カレサリシナリ先ツ此無記名株式ハ有限責任社員ヲシテ

社務ニ關涉シシメサルノ原則ニ抵觸スルカ如キ感アリ何トナレハ無記名株式ヲ有スル者ハ社外人ノ得テ知ル能ハサル故ニ商法第二十八條ノ禁アルニモ拘ハラズ社務ニ關涉シ責罰ヲ受クルニ至ラサル者アレハナリ然レモ元來管理人ハ確實ナル責任ヲ有スルヲ以テ此弊害ノ如キハ敢テ顧慮スルニ足ラサルナリ  
又一ノ弊害アリ無記名株式ニ付テハ現株主ノ誰タルヲ知ル能ハサルヲ以テ約諾シタル株金ノ不足ヲ拂込マシムルヲ得サルニ至ルヘシ尤モ其株式ハ商人集會所ニテ之ヲ賣却シ以テ不足ヲ補フヲ得ヘシ或ハ最初加入ヲ申込タル者ハ其申込高ニ付始終責任ヲ負フ者ナリト看做スヲ得ン乎然レモ會社ニ在テ無記名株式ヲ作ルハ申込人自己ノ株



式ヲ賣却シ以テ他ノ社員ヲシテ已レニ代ラシムル事ヲ豫メ許容シタルモノニテ其株式ノミ獨リ義務ヲ有シ拂込ム可キ金額ノ責任アリト論スル者アリ此說ニ依ルキハ會社ハ其資本ノ一部ヲ失フニ至リ加之原株式申込人及ヒ發起人ハ空相場ヲ逞フスルニ至ルヘシ

第卅八答 千八百五十六年ノ法ハ無記名株式ニ付左ノ如ク規定シタリ

- 一 株式ハ其全額ヲ拂込迄ハ記名タルヘキ
  - 二 株式申込人及ヒ其株式ヲ無記名ニ變更セサル前該受クル者ハ券面全額ヲ拂込ノ責任アル
- 此嚴ナル規則ハ左ノ弊害アリ即チ資本全額ヲ要セサル會社ヲシテ無記名株式ヲ有スルノ權ヲ失ハシメ加フルニ全

ク拂込ノ濟サル株式ヲ交々所有スル者ハ時効ヲ主張スルヲ得スシテ永久其責ヲ免カル能サルニ至レリ何トナレハ株主ノ會社ニ對スル負債ハ會社於テ資本ヲ徵收セサル以上ハ要求スルヲ得サルモノナレハナリ

第卅九答 千八百六十七年ノ法律ハ右等無記名株式ノ弊害ヲ救治スルノ目的ニ出テ左ニ掲クル三個ノ條件ヲ以テ全額拂込ノ前ト雖モ記名株式ヲ無記名ニ變更スルヲ許シタリ即チ

- 一 會社契約書ニ株式變更ノヲ豫メ規定スル
  - 二 總株金ノ半額ヲ拂込ミタル
  - 三 總會ノ決議ニ於テ株式ノ變体ヲ認許シタル
- 此法律ノ明文ヲ説明セシメ左ノ三個ノ場合ヲ認ムルヲ得



第一 會社契約書ニ於テ株式ノ半高ヲ拂込ミタルノ後ハ其株式ヲ變換シテ無記名ノ株式トスルヲ許シ且其總會ニ於テ其變換ヲナスノ事ヲ決定ス此場合ニ於テ例ヘハ元申込人ハ半高拂込前ニ其株式ヲ讓渡シ或ハ其拂込後ニ之ヲ讓渡シタリ

若シ其拂込前ニ係ルモノタレハ總會ヨリ二ケ年内ハ元申込人ハ其株式高全額義務ヲ免カレ得サルヘシ

又其讓受人モ同期限内ハ同一ノ義務ヲ負フヘシ

然レモ總會ヨリ滿二ケ年後ニ於テハ元申込人及ヒ讓受人共ニ已レノ身上ニ復タ義務ヲ負フヲナク唯株式ノミ獨リ負債義務ヲ有スベシ

若シ其拂込ヲ得サルキハ其株式ハ株式取引所ニ於テ之ヲ賣拂ヒ其價額ヲ以テ延滞ノ拂込ヲ濟スナリ

若シ株式ノ讓渡シ其半高拂込ノ後ニアルキハ元申込人ハ已レノ身上ニ義務ヲ負フヲナシ其讓受人亦義務ヲ負ハサルハ固ヨリ論ヲ俟マス

第二 仮令ヒ會社契約書ニ於テハ半高拂込ノ後ハ其株式ヲ變シテ無記名ノモノトスルヲ許スアルモ總會ハ其評議ニ依リ之ヲ許サ、ルヲ得ヘシ然ルキハ其株式ハ記名タルニ止ルヘシ

此場合ニ於テ申込人若シ其株式ヲ讓渡スノキニ未タ一モ拂込ヲナサ、ルキノ義務アルヘシ

千八百六十七年ノ法ニ於テハ總會ヨリ二年ノ後ハ其義務



ヲ免カレシム其讓受人モ又同期限内ニ在テハ拂込ノ義務  
ヲ免ル、ヲ得ス但其期限後ハ讓渡シ人及ヒ讓受人ト共ニ  
其義務ヲ免カレ唯其株式ノミ獨リ其額面拂込ノ義務ヲ負  
フヘシ

第三 半高拂込ノ後ニ其株式ヲ變更シテ無記名トナスヲ  
得ヘキコトヲ會社契約書中ニ記載セス是ニ依テ總會ハ其變  
更ヲナスコトヲ許スヲ得ス故ニ其株式ハ記名タルニ止マル  
ヘシ

第四拾答 株式差金會社ハ利益差金會社ト同シク人ト物ト  
ノ二原素ヲ包含ス即チ會社（ソレ）ノ管理ニ任スル無限責任社員  
ト有限責任社員ノ兩種ヨリ成立ツモノナリ而シテ其有限  
責任社員ノ會社ニ對スル責任ハ單ニ其申込ミタル株式ノ

價額ニ止マルモノトス

株式差金會社ハ通常差金會社ト等シク社名ヲ以テ取引ス  
ル者ニシテ社名ハ支配人タル無限責任社員ノ名前ニ組合  
ノ字ヲ加フルモノトス

株式差金會社カ通常又ハ利益差金會社ト大ニ異ナルハ資  
本ヲ株式ニ分割スルヲ以テ嚴ナル制規ニ循ハサルヲ得サ  
ル是ナリ此組織ヲ以テ成ル會社ハ稍重大ノ事業ヲ起スニ  
適當セリ然レモ其會社ニハ管理人ノ地位特ニ大切ニシテ  
會社資本ノ如キハ無限責任社員ノ資力ト能力トノ補充ト  
看做スニ過キスシテ附從タルヲ免カレサルナリ

第四拾一答 株式差金會社ハ公正證書又ハ私證書ヲ以テ成  
ル而シテ私證書ヲ以テスルモハ合名會社又ハ通常差金會



社ト異ナリ社員ノ數ニ準シ正本數通ヲ作ルノ煩ナク唯々  
 正本二通ヲ作ルヲ以テ足ル是レ從前議論ニ係リシカ千八  
 百六十七年ノ法律ヲ以テ決定シタル所ナリ  
 而シテ千八百六十七年ノ新法ニ於テ株式差金會社ノ適法  
 ニ且確實ニ創立シタルモノトスルニ付左ノ條件ヲ要求シ  
 タリ

- (一) 會社ノ資本ハ其高二拾万「フランク」ヲ超過スルト否  
 トニ從ヒ少クモ百「フランク」又ハ五百「フランク」ノ株式或  
 ハ小割株式ニ分割スルコト
- (二) 資本全部ノ申込アルコト
- (三) 各株主少クモ其申込高ノ四分ノ一ヲ拂込タルコト
- (四) 此資本金申込ト其拂込トハ公正ノ證書ニ作リタル

支配人ノ陳述書ヲ以テ証スルコト但其陳述書ニハ申込人  
 名簿拂込簿會社創立證書ノ私証書ナルニ於テハ其二通  
 ノ内一通若シ公正證書ナルモ陳述書ヲ作リタル公証人  
 ト異ナル時ハ其謄本ヲ添ユ可シ(千八百六十七年ノ法第一條)  
 (五) 差入物件ノ金圓ニアラサルモ其物品ノ價額又一  
 社員ノ爲メニ特別利益ヲ約シタルモ其金高ヲ先ツ第  
 一總會ニ於テ査定シ次ニ若干ノ期限後第二總會ヲ開キ  
 総株主四分ノ一ト會社資本四分ノ一ニ當ル多數決ヲ以  
 テ之ヲ認可スルコト

(六) 會社創立確定ノ後未タ事業ニ着手セサルルノ前株  
 主總會ニ於テ少ナクモ三名ノ監察役ヲ撰任スルコト(千八百六十七年ノ法第五條)



右六個ノ要件ノ適合シテ然ル後始メテ完全ナル株式差金  
會社ヲ創立スルヲ得ルナリ

第四拾二答 株式差金會社ノ支配ニ付テハ左ノ三條件ヲ具  
備スルヲ要ス

- 第一 管理人「即チ諸事ヲ指揮スル任アル者
- 第二 監察役「即チ監督ノ任アル者
- 第三 株主總會「即チ會社ノ爲メ議決シ會社ノ管理ニ付  
意見ヲ述ヘ並ニ計算書ヲ審査スル者

第四拾三答 株式差金會社ハ通常差金會社ト等シク無限ノ  
責任アル社員其社名ヲ以テ管理スル處ニシテ其一人又ハ  
數人ノ管理人ハ一身上并ニ連帶ニテ會社ノ義務ヲ負ヒ株  
主ハ會社ノ事務ニ干涉セサレハ自己ノ差入高ノ外義務ヲ

負擔スルヲナシ

(附言) 株式ハ無名會社ト等シク無記名タルヲ得ヘキチ  
以テ果シテ株主ノ社務ニ干涉セシヤ否ヲ知ルハ容易ニ  
アラス

原則ニ於テ會社創立規則ヲ以テ撰任シタル管理者ハ免黜  
ス可ラサルモノトス然ルニ千八百六十七年ノ法律第十一  
條ヲ以テ免黜ノ權利ヲ排斥シタルカ如キニモ拘ハラズ實  
際裁判事例ニテハ株主ハ隨意ニ管理者ヲ免黜スルヲ得ヘ  
キノ契約ヲ爲スヲ許シタリ蓋シ千八百六十七年ノ法律  
ハ監察人ニ會社解散ノ發議ヲ爲スヲハ許シタルモ管理者  
ヲ免黜スルヲハ之ヲ許サ、リシナリ

第四拾四答 監察人ハ管理人ノ事務ヲ監督ス



監察人ハ會社創立確定ノ後未タ事業ニ着手セサル前直ニ  
 株主總會ニ於テ少クモ三名ヲ撰任スルモノナリ而シテ其  
 在職ハ有期ニシテ會社規則ニ規定シタル條件ニ循ヒ其期  
 節ニ於テ改撰ス可キ者トス然レモ會社創立ノ當初ハ各株  
 主於テ其人物ノ適否ヲ知ル能ハサルヲ以テ第一監察人ハ  
 其任期一年ナリトス（千八百六十七年ノ法律第五條）  
 此第一監察人ハ會社ノ構成ニ必要ナル條件ヲ履踐セシヤ  
 否ヤヲ審査シ而シテ若シ其構成規則ニ背戾シタル爲メ會  
 社ノ無効ナル場合ニ於テ其無効ヨリ生シタル損害ハ監察  
 人ハ管理人ト共ニ其責任ノ言渡ヲ受クルコトアルヘシ（千八百  
 十七年ノ法律第六條及第七條）  
 又監察人ハ會社ノ帳簿金庫及ヒ現有證券ヲ調査スルノ任

アリ而シテ毎年總會ニ際シ報告書ヲ提出シ以テ財産目錄  
 中ニ就テ認メタル不規則及ヒ誤謬ノ点ヲ明示シ及ヒ若シ  
 潤益ノ配當ヲ拒止スヘキ理由アルキハ之ヲ記載スヘシ（千  
 八百六十七年ノ法律第十條）

第四拾五答 夫レ利益配當ハ會社ノ潤益中ヨリ支出セサル  
 可ラス然レモ千八百六十七年ノ法律ハ虛妄ノ配當ヲ爲シ  
 タルキト雖目錄ヲ作ラサルカ又ハ之ニ証明シタル利益ノ  
 外ニ配當シタル場合ノ外之ヲ取戻ス可ラサルコトヲ規定シ  
 而シテ其取戻ノ訴權ハ利益配當ノ日ヨリ五ヶ年間トセリ  
 （附言）此法律ハ學者間ニ決セサリシ問題ヲ解折シタル  
 モノトス而シテ又一般ノ裁判事例ニ依ルニ株主ハ如何  
 ナル場合ヲ問ハス已ニ領收シタル虛妄ノ配當ハ之ヲ返



還セサルヘカラスト爲セリ是レ其潤益中ヨリセヌシテ  
成規ニ反シ會社資本中ヨリ支出シタルノ故ヲ以テナリ  
若シ又目錄ヲ作ラス又ハ目錄外ニ渡シタルキハ五ヶ年  
内ニアラサレハ之ヲ取戻スヲ得ス目錄ニ照準シテ配  
當シタルキハ決シテ取戻スヘカラスト何トナレハ此場合  
其利益ハ善意ノ株主ニ屬スヘキ入額ト看做サルハ故ナ  
リ

○爰ニ注意スヘキ事アリ即チ千八百六十七年ノ法律ノ  
報告書ニ曰ク虚妄ノ利益配當ニ付テ謂フ処ノモノハ亦  
之ヲ年々ノ息銀ニモ適用ス可シ元來年々ノ息銀ハ會社  
潤益ヨリ支出スルニ非サレハ正當ナルモノニアラサレ  
ハナリ決シテ會社資本中ヨリ支出ス可キニアラス

然リ而シテ目錄ヲ調製セヌ又ハ詐僞ノ目錄ヲ以テ株主間

ニ虚妄ノ利益ヲ配當シタル管理人ハ詐僞取財ノ罪アリト

シ法律ノ罰スル処トス（千八百六十七年ノ法律第十五條第三項）

千八百六十七年ノ法律（第二條）ハ總會ニ於テ監察人ノ年々ノ

報告ヲ聽キ實益ヲ得ル爲メ且ツ事情ヲ熟知シテ投票セン

爲メ株主ハ少クモ總會發開十五日前自身又ハ代權人ナシ

テ會社本舖ニ到リ財産目錄書及ヒ監察人ノ報告書ヲ閱覽

スルヲ許シタリ又監察人ハ總會ヲ召集シ且其意見ニ循

ヒ會社解散ノヲ訴求スルヲ得（千八百六十七年ノ法律第十一條）

第四拾六答 千八百六十七年ノ法律ハ會テ困難ヲ生シタル

彼ノ監察人ノ責任ニ付精確ナル規定ヲ記載セリ

抑々監察人ハ管理上ノ所爲及ヒ之レヨリ生スル結果ニ付



テハ元來責任ヲ有セサル者ナリト雖其委任セラレタル職務ノ執行ニ付テハ普通法ノ成規ニ循ヒ其一身上ノ過失ノ責任ニ任セサル可ラス（第九條）而シテ管理人ノ犯罪ニ付監察人之カ從犯タリシキハ管理人ト等シク刑事裁判所ニ於テ呼出サレ同一ノ刑ノ言渡ヲ受クヘシ然レモ民事上ノ過失ニ過キヌシテ只タ損害賠償ニ止ルモ尙ホ民法第千三百八十四條ノ規定ニ依リ管理人ノ犯罪ニ付民事上ノ責任アリヤ且ツ治罪法第百八十二條及ヒ第百九十四條ニ循ヒ刑事裁判所ノ管轄ナルヤノ問題ニ付テハ千八百五十六年ノ法律ノ時大審院ハ積極的ノ判定ヲ下シタリ然ルニ千八百六十七年ノ新法ハ各監察人ハ管理人ノ犯罪ニ關シテハ民事上ノ責任ナシト明言シ以

テ前問ニ付キ消極的ノ規則ヲ設ケタリ實ニ監察人ハ視察監督ノ任アリト雖モ民法第千三百八十四條ニ於テ民事上ノ責任ヲ規定シタル權威ヲ管理人ノ身上ニ行フノ位置ヲ有セサルナリ

第四拾七答 株主總會ハ會社創立ノ際開會シテ先ツ金圓ニアテサル差入物件及ヒ一社員ノ爲メニ約シタル特別ノ利益ニ就テ審査シ次ニ之ヲ認定シ而シテ後會社ノ事務ニ着手スル前株主中ヨリ少クモ三名ノ監察役ヲ撰任ス可キモノトス  
又會社ノ營業間ハ會社規則ニ定メタル期限ニ株主總會ヲ開クヘシ

株主總會ハ毎年監察人ノ報告ヲ聽キ及ヒ管理人ノ稟告ヲ



決斷ス

又監察役ハ會社解散ノコトニ付意見ヲ陳述セン爲メ總會ヲ開クコトヲ得ヘシ

凡テ總會ノ組織并ニ多數議決ノ方法ニ關スル諸則ハ契約ノ自由ニ放任スルヲ以テ會社規則ニ之ヲ制定スヘシ只タ金圓ニアラサル差入物件ヲ監査ス可キ任アル總會ニ付キ例外アルノミ

總會ノ會議ニ於テ投票ノ自由ト公誠トヲ確實ナラシムル爲メ千八百六十七年ノ法律ヲ以テ左ニ掲クル者ハ五百フランク以上一万フランク以下ノ罰金ニ處シ又ハ十五日以上六月以下ノ禁錮ニ處スルコトヲ規定セリ尤モ此法律ニ掲クル他ノ犯罪ニ對スルト等シク酌量減輕ノ情狀アルキハ

刑法第四百六十三條ヲ適用スルコトヲ得ルナリ

(第一) 己レニ屬セサル所ノ株式又ハ小割株式ヲ己レ其株主ト僞稱シ總會ニ出席シ多數ヲ構成シタル者但之レカ爲メ會社若クハ他人ニ損失ヲ蒙ラシタルキハ尙ホ之ヲ償フヘシ

(第二) 其詐僞ヲ行フノ目的ニテ株式ヲ人ニ渡シタル者會社資本高ニ應シ少クモ二十分ノ一ニ當ル株主ニシテ共通ノ利益ニ關シ原告タルト被告タルトヲ問ハス管理人若クハ監察人ニ對シ訴訟ヲ爲スニ付テハ自己ノ費用ヲ以テ一人又ハ數人ヲ名代ト爲スコトヲ得而シテ此場合ニ於テハ株主各々自己ノ名ヲ以テ爲シ得ル訴權ニ抵觸スルコトナカルヘシ(千八百六十七年ノ法第十七條)



第四拾八答 夫レ無名會社トハ總テノ社員公衆ニ對シテ姓名ヲ顯サス唯差入金高限リ義務ヲ負フ所ノ會社ヲ云フ此會社ハ資本ノ會社ニシテ人ニ基クモノニアラス抑々無名會社ニ於テハ社員ハ一身上ニ責任ヲ負フ可キモノニアラサルヲ以テ商法典ニ此會社ノ創立ハ政府ノ允許ヲ要スルコトヲ掲ケ其他尙公正証書ヲ以テ之ヲ証明スルヲ要シタリキ

第四拾九答 千八百六十三年五月二十三日ノ法律ハ新ニ自由ノ制ヲ設ケント欲シ英吉利ニ行ハル、會社ニ模擬シ有限責任會社ト稱シ無名會社ノ變體ヲ制定セリ而シテ此會社ハ政府ノ允許ナクシテ設立スルヲ得タリキ然レモ其資本ハ二千万「フランク」ヲ超過ス可ラサルコト七名以上ノ社員ヲ以テ組織スルヲ要シタリ

第五拾答 千八百六十七年ノ新法ニ依レハ資本ノ幾許ナルヲ問ハス無名會社ハ政府ノ許可ナクシテ之ヲ設立スルヲ得ヘシ

然レモ社員ハ七名以上ナラサル可カラズ之ニ二個ノ例外アリ

第五十一答 (第一)「ト」ノ性質ヲ帶タル組合及ヒ生命保險會社ハ政府ノ許可ヲ受ケサルヲ得サルモ生命保險ニアラサル他ノ保險會社ハ其許可ヲ要スルコトナシ然レモ行政規則ニ定ムル處ノ諸多ノ條件ヲ履踐セサルヘカラス  
(千八百六十七年ノ法律第六十六條第六十七條及ヒ千八百六十八年一月二日ノ規則)  
 (第二)無名ナルト否トヲ問ハス外國人ノ設立ニ係ル會社ハ



其本國政府ノ許可ヲ受ケサルヘカラス○此等ノ會社其本國政府ノ許可ヲ得タルモ佛國ニ於テ許可セラレザリシモ猶佛國ニ於テ其權利ヲ行ヒ若クハ其裁判所ニ出訴スルヲ得ルヤ否ニ付テハ原告人トシテハ裁判所ニ出ルヲ許サハルモ單ニ被告トナリテ出頭スル事ヲ許シタリ（千八百六十四日大）  
（四年十一月）  
審院判決

第五十二答

夫レ無名會社ハ物ニ基クモノニテ其信用ハ一ニ資本ニアルノミ各社員ハ會社ノ負債ニ付キ躬自ラ義務ヲ負フコトク唯其差入高限リノ責任ヲ有ス故ニ會社ハ其債主ニ對シ各社員ノ差入物ヲ以テ其抵償ト爲スニ過キサルナリ是ヲ以テ此會社ハ資本會社ナリトス  
此無名會社ハ各社員會社ノ義務ニ付自己ニ無限ノ責任ヲ

有スル處ノ合名會社トハ全ク其性質ヲ異ニス  
又差金會社トモ異ナル處アリ蓋シ差金會社ハ信用ノ基礎タルモノニアリ即チ無限責任社員其人ニ就テノ信用及ヒ有限責任社員ノ差入レタル資本其物ニ付テノ信用是ナリ  
無名會社ニ於テハ其信用ノ基礎タルモノハ會社ノ資本ニシテ人ニアラストノ原則ヨリ左ノ結果ヲ生ス

(一)會社ノ資本ハ株式差金會社ノ資本ト等シク之ヲ株式（商法第三）  
又ハ小割株式ニ分ツコト（十四條）

(二)無名會社ハ株式差金會社ト異リ社名ヲ有セズ單ニ起業ノ目的ヲ以テ之ヲ示スニ過キサル（商法第廿九條）即チ

佛蘭西銀行、火災保險會社、北方鐵道會社ト稱スル如シ  
此組織ノ會社ハ巨額ノ資金ヲ要スル大事業ヲ起スニ最モ



適當ナリ而シテ社員ノ責任及ヒ管理人ノ資本如何ノ如キハ敢テ問フコトヲ要セス

(附言) 商事會社ノ各種ノ組織ヲ各國諸政体ニ比シテ言ハシニ合名會社ハ聯邦共和國ノ如ク通常差金會社ハ君主獨裁國ニ類似シ株式差金會社ハ立憲王國ノ如ク無名會社ハ民主共和國ニ髣髴タリ

第五十三答 又無名會社ハ現今政府ノ允許ヲ要セス又公正証書ヲ以テスルノ要ヲ見ス

千八百六十七年ノ法律ニ依ルニ此會社ハ自由ニ設立スルヲ得尙且株式差金會社ノ如ク正本二通ヲ要スル私証書ヲ以テスルヲ得(千八百六十七年ノ法律第二十一條)而シテ此種ノ會社ハ社員七名以上ナラサルヘカラス(千八百六十七年ノ法律第二十三條)

株式差金會社ニ關スル規則ノ左ノ件々ハ無名會社ニ等シク適用スヘキモノトス即チ會社ノ資本ヲ成規ノ額ナル均一ノ株式ニ分割スルコト、資本全額ノ申込アルコト、株券四分ノ一ノ拂込アリシコト、及ヒ其拂込ノ後ハ之ヲ他人ニ讓渡ヲ得ルコト、半額拂込ノ後ハ記名株式ヲ無記名株式ニ變更スルヲ得ヘキコト又ハ總會ニ於テ通貨ニ非サル差入物件及ヒ特別利益ヲ査定スルコト

無名會社發起人ハ資本ノ申込及ヒ四分一拂込ノコトニ付公吏ノ面前ニテ陳述シ其陳述書ハ之ヲ証書類ト共ニ第一總會ニ提出シ審査ヲ受クヘシ(千八百六十七年ノ法律第四十條及ヒ第四十二條)此定式ニ違背スルコトハ關係者ニ對シテハ無効トス但株式差金會社ニ關スル第十六條ニ記スル刑事ノ制裁ト抵觸スルコト



ナカハルヘシ

第五十四答 無名會社ノ支配ニ關シテハ左ノ條件ヲ要ス

第一 株主○株主ハ總會ニ於テ會社ノ規則ヲ議定スル

アケンモールモノニシテ眞ニ指揮ノ地位ヲ占ル者ナリ

第二 支配人○支配人ハ會社ノ事務ヲ支配シ株主ノ志

アドミニストラール向チ實行スルモノナリ

第三 検査役○検査役ハ株主ト支配人トノ中間ニ在テ

コンシツセル會社ノ事務ヲ視察監査スルモノナリ

以上ノ三個ハ無名會社ノ支配ニ參與スルモノナリ

株主ハ總會ヲ開クヲ常トスルモ時トシテハ各個ニ議スル

トアリ又支配人若クハ検査役ニ對シ訴訟ヲ爲ス場合會社

資本ニ應シ少ナクモ其二十分ノ一ニ當ル株主自ラ名代人

ヲ撰任シ之ヲシテ訴訟ヲ爲サシムルヲ得ヘシ

第五十五答 株主總會ノ決議法ハ多數決ニ依ルト雖モ單ニ

人員ノ多數ニ依ラスシテ各株主ノ有スル株式ノ數ニ據ル

而シテ總會ニハ各株主ノ氏名住所及ヒ其所有ノ株式ノ數ヲ

記載シタル出席名簿ヲ設ク此名簿ハ會議局ニ於テ檢印シ

タル後之ヲ會社ニ保存シ閱覽ヲ要ムル者アルキハ之ヲ示

スヘシ(千八百六十七年)ノ法第二十八條

總會ハ會社創立ニ際シ發開スルアリ又創立後ニ開クアリ

テ其組織ト決議法トニ開ク各々差異アリ

(一) 會社創立ニ際シ發開スル總會○會社創立ニ際シ發

開スル總會ハ發起人ノ招集ニ依ルモノニシテ第一會社

資本ノ申込各株主申込高四分ノ一ノ拂込等ニ付キ發起



人ノ陳述正實ナルヤ否ヲ審査シ第二總會ニ於テ一社員ノ爲メニ特ニ約シタル利益若クハ金圓ニアラサル差入物件ヲ調査シ且支配人及ヒ検査役ヲ撰任ス

此總會ニ於テハ株式ノ多寡ニ抱ハラス各株主ハ會社規則ニ定メタル發言ノ數ヲ以テ參會スルヲ得ヘシ蓋シ該規則ニハ十個以上ノ發言ヲ許スヲ得ス然リ而シテ此總會ハ會社資本ノ半額以上ニ當ルヘキ株主ノ員數ヲ以テ組織セサル可ラス若シ然ラサルハ其決議ハ仮定ノ決議ニ過キスシテ更ニ資本五分ノ一以上ニ當ルヘキ株主ノ員數ヲ以テ組織シタル第二總會ニ於テ認可シタル以上ニアラサレハ確定ノ決議タルヲ得サルモノトス(千八百六十七年ノ法第二十七條及ヒ第三十條)

(二) 會社創立後ノ總會○會社創立後ニ開會スヘキ總會

ニ二個ノ區別アリ即チ

一 通常總會

二 臨時總會

通常總會ハ毎年會社規則ニ定メタル時期ニ招集ス而シテ此總會ニ於テ検査役ヲ撰任ス検査役ハ支配人ヨリ呈出スル會社ノ實況出納比較表及ヒ計算書ニ付翌年ノ總會ニ報告ヲ爲スノ任アリ(千八百六十七年ノ法第二十七條及ヒ第三十二條)

此通常總會ハ株主中之ニ參加シ得ル者ト否ラサル者トアリテ會社規則ヲ以テ所有者ノ名義ナルト名代人ノ名義ナルトヲ問ハス參會スル爲メ所持ス可キ株式ノ員數ヲ規定シ之ニ合格スル者ニアラサレハ參會スルヲ許サ



又各株主ノ有スル應ノ株式ノ數ニ準シ其發言ノ權ヲ定ムルナリ又此總會ハ會社資本ノ四分ノ一以上ニ當ル株主ノ出席アルヲ要ス若シ然ラサルハ更ニ第二會ヲ開キ出席シタル株主ノ代表スル資本ノ多少ニ拘ハラズ議決スルモノトス（千八百六十七年ノ法第二條及ヒ第二十九條）臨時總會ハ社則ヲ改正シ或ハ會社繼續ノ定期ヲ永延シ或ハ期限前ニ解散スル等ノヲ議決スルモノトス此總會ニ於テモ社則ヲ以テ其參會ニ必要ナル株式ノ數ヲ定ムルナリ然レモ此總會ハ資本ノ半額以上ニ當ルヘキ株主ノ出席シタルニアラサレハ決議スルヲ得ス（千八百六十七年ノ法第廿七條及ヒ第三十一條）

第五十六答

無名會社ハ株主總會ニ於テ撰任シタル一名又

ハ數名ノ代理人ノ之ヲ管理ス而シテ其代理人ニ定限アリ又無給ナルアリ有給ナルアリ  
 支配人ハ其委任ヲ受ケタル事務ノ執行ノミノ責ニ任スヘキモノニシテ其管理上ノ事務ニ付會社ノ負フタル義務ヲ一身上又ハ連帶ニテ負擔スルノ義務ナシ（商法第三十二條）  
 支配人ハ代理人ニ過キスシテ其義務ヲ負フ可キ者ハ即チ會社ナリトス但シ千八百六十七年ノ新法ニ依ルニ支配人タラシニハ保証ヲ爲メ左ノ條件ヲ要シタリ  
 (一) 支配人ハ社員中ヨリ之ヲ撰任ス可シ若シ之ニ背違スルハ無効トス尤モ支配人ハ其同役中ヨリ頭取一名ヲ撰舉スルヲ得又社則ニ許シタルハ社外人ヲ自己ノ代理ト爲スヲ得ヘシ但其代理人ノ所爲ニ付テハ支配



人自ラ其責ニ當ル可キモノトス

(二) 支配人ハ株主總會ニ於テ撰任シ其在職期限ハ六ケ年ヲ超過ス可ラス但特約ナキ片ハ之ヲ再撰スルヲ得ヘシ然レモ又社則ヲ以テ總會ノ認諾ヲ受クルヲ要セサルヲ明記シテ支配人ヲ指定スルヲ得但シ斯ク社則ヲ以テ任定シタル支配人ハ任期三年ヲ越ユヘカラス(千八百六十七年ノ法第二十五條)

(三) 支配人ハ社則ニ規定シタル數多ノ株式ヲ有セサル可ラス此株式ハ舉テ管理所爲ノ保証ニ當ツルモノニシテ支配人中一人ノ所爲ト雖モ亦タ然リトス而シテ此等ノ株式ハ記名ノモノニシテ他ニ讓與ス可ラス且其讓與ス可ラサル旨ヲ刻シタル印ヲ押捺シ常ニ會社ノ金庫中

ニ保存ス可シ(千八百六十七年ノ法第二十六條)

(四) 支配人ハ會社ト爲シ又ハ會社ノ爲メナシタル取引ニ付キ間接或ハ直接ノ利益ヲ有スルヲ得ス但シ總會ニ於テ之ヲ許シタル取引ノ執行ニ付テハ毎年總會ニ特別計算書ヲ呈出ス可キモノトス(千八百六十七年ノ法第四十條)  
支配人ハ會社ノ構成及ヒ其業務ノ制規ニ違背セサルヲ注視セサル可ラス故ニ會社契約若クハ總會ノ議決無効トナリタルモ其無効ノ責ヲ負フヘキ發起人及ヒ當時職務ニ在リシ支配人共ニ社外人ニ對シ連帶シテ其責ニ任スヘシ但株主ノ權利ニ抵觸スルヲナカルヘシ而シテ未ダ差入物件若クハ特別利益ノ審査認定ヲ受サル社員モ亦同シク連帶シテ其責ニ任ス可キモノトス(千八百六十七年ノ法第四十二條)



又支配人ハ六ヶ月毎ニ會社ノ貸方又ハ借方ニ付畧表ヲ調  
 制シ又一年毎ニ商法第九條ニ循ヒ會社ノ動産不動産及ヒ  
 貸方借方ヲ明示シタル目錄書ヲ作ルヘシ  
 支配人ハ又年々潤益金ヨリ少クモ二十分ノ一ヲ支出シ以  
 テ準備金ニ充ルヲニ付須ラク監察セサル可ラス而シテ其  
 準備金ノ會社資本ノ十分ノ一ニ至リシキハ此支出ヲ爲ス  
 ニ及ハス(千八百六十七年ノ法第三十六條)  
 又會社資本ノ四分ノ三ヲ損失シタル場合ニ在テハ會社ヲ  
 解社ス可キヤ否ノ論點ヲ決議スル爲メ支配人ハ株主總會  
 ヲ召集スルノ義務アリ若シ之ヲ爲サ、ルキハ株主ノ出席  
 定數ニ充スシテ正當開會スルヲ得サル場合ト等シク總テ  
 關係者ハ會社解散ノ一ヲ裁判所ニ請求スルヲ得ヘシ(千八百六十七年ノ法第三十六條)

十七年ノ法第三十六條

又社員ノ數七名以下ニ減シタル時ヨリ其儘一年ヲ經過シ  
 タルキハ總テ關係者ノ請求ニ依リ會社解散ヲ言渡スヲ  
 得ヘシ(千八百六十七年ノ法第三十八條)  
 支配人ハ千八百六十七年ノ法律規則ヲ犯スカ又ハ其職務  
 上殊ニ虚妄ノ配當ヲ爲スカ若クハ之ヲ爲スヲ觀過シ故障  
 ヲ申述ヘサリシ如キ過失アルニ於テハ普通法ノ規則ニ循  
 ヒ或ハ會社ニ對シ或ハ社外人ニ對シ自己一身ニ其責任ヲ  
 負擔シ又ハ連帶シテ之ヲ負擔スルコアルヘシ  
 又支配人ハ目錄ヲ調製セス若クハ詐偽ノ目錄ヲ以テ虚妄  
 ノ配當ヲ爲シタルキハ差金會社ノ管理人ニ於ケルト等シ  
 シ刑法第四百五條ニ記スル刑ノ言渡ヲ受クヘシ(千八百六十七年ノ法)



法第四十四條  
第四十五條

第五十七條 検査役 ○ 毎年定期總會ニ於テ社員若クハ社外人ヨリ一名又ハ數名ヲ撰任シテ検査役トス但シ臨時必要ノ場合ニ商法裁判所長ノ命令ヲ以テ撰任スルコトアリ而シテ左ノ任アルモノトス

- 一 検査役ハ視察監査ノ任アル者トス
- 二 検査役ハ支配人ヨリ呈出シタル會社ノ實現出納比較表及ヒ計算書ニ就キ總會ニ報告ヲ爲スヘシ

總會議ニ於テ検査役ノ報告ナクシテ出納比較表及ヒ計算書ヲ認可シタルキハ其決議ノ効ナシトス（千八百六十七年ノ法第二十五條及第三十一條）

検査役ハ總會招集ノ定期ヨリ三ヶ月以内ニ會社ノ簿冊ノ

閱覽ヲ爲シ事務ヲ審査スルノ權アリ又至急ヲ要スルキハ總會ヲ招集スルコトヲ得ヘシ（千八百六十七年ノ法第三十五條）

目錄出納表及ヒ損益計算書ハ遅クモ其之ヲ呈出スヘキ總會發會ヨリ四十日前ニ検査役ニ渡ス可シ（千八百六十七年ノ法第三十四條）

又總テ株主ハ總會開會ヨリ少クモ十五日前ニ會社ニ至リ目錄及ヒ株主姓名簿ノ閱覽ヲ爲シ而シテ目錄ヲ抄畧シタル出納表ノ寫及ヒ監察人ノ報告書ノ寫ヲ受取ルコトヲ得ヘシ（千八百六十七年ノ法第三十五條）

検査役ノ責任ハ代理ノ總則ヲ以テ定ムルモノトス

第五十八條 株式差金會社ト無名會社ノ差異 ○ 夫レ株式差金會社并無會社ハ等シク株式ニテ成立ト雖モ此二個ノ間左ノ諸件付各差異アリ即チ



(第一) 株式差金會社ニ在テハ二種ノ社員アリ無限責任社員及ヒ有限責任社員即チ株主是ナリ而シテ其無限責任社員ハ一身ニ無限ノ責任ヲ有シ株主ハ自己ノ有スル株式高ノ外義務ヲ負ハサルモノナリ

無名會社ニハ唯一種ノ社員アルニ過キス即チ株主是ナリ而シテ其責任ハ株式高ニ限ルモノナリ

(第二) 株式差金會社ノ社名ハ無限責任社員ノ氏名ヲ以テヌ

無名會社ニハ社名ナル者アルヲナシ

(第三) 株式差金會社ノ管理人ハ無限責任ノ資格ヲ有スルヲ以テ自ラ保証アリテ任期ニ定限ナク又免黜セラル、ヲナシ

無名會社ノ支配人ハ代理人ナルヲ以テ任期ニ定限アリ又免黜セラル、ヲアリトス然レモ支配人タルモノハ其社員ニシテ必スヤ株式ヲ有スルモノタラサル可カラス

(第四) 株式差金會社ノ管理人ハ其地位確定セルヲ以テ間斷ナク株主中ヨリ撰任シタル監察人ノ監督ヲ受クル者トス

無名會社ノ支配人ハ其地位動揮スルヲ以テ社員若クハ社外人ヨリ撰任シタル検査役ノ監督スル處ニシテ其監査ハ總會前三ヶ月間之ヲ行フニ過キス

(第五) 株式差金會社ノ規則ハ之ヲ社則ニ放任ス

無名會社總會ノ規則ハ法律ヲ以テ規定スルヲ多シ

(第六) 株式差金會社ニハ社員ノ最少數ヲ定メス



無名會社ハ社員七名以上ナラサル可カラス

(第七) 株式差金會社ニ於テハ準備金ヲ要スルノ義務ナ

シ

無名會社ハ準備金ヲ爲サ、ル可ラス

(第八) 株式差金會社ニ在テハ會社資金四分ノ三ヲ損失

シタル場合ニ於テ會社ノ繼續ト否トニ關シ總會ノ決議

ヲ要スルコトナシ

無名會社ニ在テハ斯ノ場合ニハ必スヤ總會ノ決ヲ取ラ

サル可ラス

第五十九答 共分組合ノコトハ商法第四十七條ヨリ第五十條

迄ニ規定セリ○抑々共分組合ノ性質ニ付テハ之ヲ精定ス

ルニ混雜ヲ覺ユ

商法第四十八條ノ明文ニ據ル說ニ曰ク共分組合トハ商業

上<sup>○</sup>一個又ハ數個ノ取引ニ目的ヲ限ルモノヲ云フ故ニ數人

相謀リ山林ヲ買入レ之ヲ伐出シ又ハ麥ノ積荷ヲ買入レ更

ニ之ヲ小賣シ或ハ畜類ノ用達ヲ爲シ宿屋又ハ温泉宿ヲ爲

ス如キハ共分組合ヲ組織スルモノナリト

他ノ說ニ曰共分組合ハ其目的一個又ハ數個ノ取引ニ制限

スルモノナルハ疑フ處ニアラサルモ此考量ヲ以テ之ヲ他

ノ會社ト識別スルハ未タ完全タル者ニアラス殊ニ合名會

社ノ如キハ等シク一個又ハ數個ノ事業ヲ目的トスルコト

リ抑會社ノ性質ハ其事業ノ數ト其期限トニ原因ス可ラス

而シテ共分組合ノ特別ナル性質如何ト云フニ此組合ハ公

衆ニ向テ會社ト稱スヘキモノニアラスシテ其社員相互ノ



間ニノミ會社タルノ組織アルニ過キサルナリ而シテ其社員タル者ハ其契約ニ循ヒ又ハ其利益ニ比較シテ損益ヲ分擔ス且其取引ハ組合人中ノ一名ノ名ヲ以テシ其名ニテ爲スニアラス故ニ自ラ取引ヲ爲シタル者ノミ獨リ他人ニ對シ義務者若クハ權利者タルヘシト此說ハ前說ニ比スルニ稍々穩當ニシテ法理ニ近キモノトス

然レトモ衆說ノ認ムル處ニ依レハ共分組合ハ公告ノ義務ナキヲ以テ無形人ニアラスト（千八百五十八年五月五日及日大審院判決）又第五十條ニ曰共分組合ハ他ノ會社ノ法式ニ循フニ及ハスト又大審院ニ於テ（千八百六十三年七月二十九日判決）共分組合ハ社名ヲ附スルヲ得可ラス又組合所在ノ地ヲ以テ裁判管轄ヲ定ムルヲ得（千八百六十年六月四日及千八百六十五年八月十五日判決）ト判定

セリ

夫レ共分組合ハ無形人ニアラサルヲ以テ各組合人ハ其差入物ニ付キ獨リ所有者タルヤ或ハ又其醜集物件ニ付テハ共有者タルヤ將々之ニ反シ其所有權ハ專ラ管理人ノ掌中ニ委託シタルヤヲ知ラシムル組合人相互ノ契約ニ依ラサル可ラス即チ第四十八條ニ曰此組合ハ其目的トスル處ノ事業設立ニ關スル法式利益ノ準例及ヒ他ノ條件等ハ互ニ契約シテ之ヲ定ムヘシト  
共分組合ハ簿冊及ヒ往復書翰ノ提出又ハ裁判所ニ於テ許ス可キモノト思料スル時ハ証人證據即チ總テ商事上ノ證據ニ依リ証明シ得ル所ノ純然タル合意契約ナルヲハ敢テ論難ス可キ点ニアラス



又此共分組合ハ商事會社ニ要スル公<sup>○</sup>告ノ法式ニ循フニ及

ハス<sup>第五</sup>第十條

共分組合ノ支配<sup>○</sup>ノ<sup>○</sup>付キ法律ハ之ヲ規定セス故ニ特ニ  
契約アラサルニハ組合人ハ各々支配スル<sup>○</sup>ヲ得ヘシ然レ  
凡實際多クハ組合人中一人又ハ數人ノ支配人ヲ撰任スル  
モノナリ

然リ而シテ何レノ場合ニ於テモ組合ノ爲メニ取引スル社  
員ハ其對手タル他人ニ對シ自己獨リ權利者タリ義務者タ  
ルモノトス何トナレハ其會社ハ他人ノ知ラサル所ナレハ  
ナリ而シテ其管理人ハ自己ノ名ヲ以テ取引ヲ爲シ特ニ社  
員ヨリ委任ヲ受ケタル場合ニアラサレハ直ニ各社員ニ義  
務ヲ負ハシムルヲ得ス是レ亦一般論者ノ共分組合ノ異ナ

ル性質ト爲ス處ナリ然レ凡其組合人ト取引ヲ爲シタル他  
人ハ民法第千百六十六條ニ循ヒ他ノ組合人ニ對シ間接ノ  
訴權ヲ行フヲ得ヘシ

爰ニ數人ノ組合人共ニ義務ヲ約シタルニ其者ハ連帶ノ義  
務アルヤ否ノ問題アリ此問題ニ付テハ連帶義務アリトノ  
說一般ニ許容セラレタリ何トナレハ連帶義務ハ商事ノ通  
法ナレハナリ且ツ會社ノ事項ニ在テハ民法第千八百六十  
二條ノ裏面ヨリ連帶ヲ推定スルヲ得ヘシ彼ノ千六百七十  
三年ノ法令ニハ第四卷第七條ヲ以テ總テ社員ハ連帶シテ  
義務ヲ負フ可シトノ明文ヲ掲ケ其連帶義務アルヲ明示  
セリ

又組合間ニ在テハ總テ組合人ハ互ニ損益ノ計算ヲ爲シ各



自其利益ノ割合ニ應シ其損失ヲ分擔スヘキモノトス  
又組合人ハ自己ノ差入高ノ外義務ヲ負ハサルノ契約ヲ爲  
スヲ得ヘシ是レ差金組合ノ一種タルヘシ

第六十答 共分組合ト他ノ商事會社ト異ナル点ヲ約言スル  
ニ左ノ三個ニアリトス

- 一 共分組合ハ商事上許スル諸般ノ證據ヲ以テ証明  
スルヲ得ル所ノ純然タル合意契約ナリトス
  - 二 公告ノ法式ヲ要セス
  - 三 共分組合ハ無形人ニアラス
- 共分組合ノ異ナル性質ハ目的ノ特別ナルヲ即チ一個又ハ  
數個ノ定マリタル取引ニ制限セラル、事及ヒ殊ニ諸般ノ  
取引ハ社名ナキヲ以テ一名又ハ數名ノ組合人ノ氏名ヲ以

テスル事ニアリ而シテ其組合人ハ獨リ他人ニ對シ權利者  
タリ義務者タルヘシ故ニ共分組合ハ其社員間ニノミ會社  
タルヘシ

第六十一答 千八百六十七年ノ法律ハ獨逸英吉利兩國ニ最  
モ行ハレ協力會社ト稱スル處ノ會社ヲ佛國ニ於テ初テ制  
定シ資本増減會社ト云ヘリ  
資本増減會社ハ職工等ノ間ニ設立スルモノニシテ其目的  
タル日用品ヲ廉價ニ買入レ信用ニ依リ其營業ヲ隆盛ニシ  
又ハ其產物ヲ最モ利益アル方法ニ賣捌等ニアリテ之ヲ稱  
シテ消耗會社信用會社及ヒ物產會社ト云フ故ニ此會社ハ  
節約、共同勞力、利益連帶ノ三個ニ依リ以テ職工社會ノ情態  
ヲ改良スルニ在リ



第六十二答 資本増減會社規則 ○資本増減會社トハ其名稱ノ如ク社則ニ循ヒ資本ノ増減アル會社ヲ云フ蓋シ其社員數度ニ拂込ヲ爲シ又ハ新社員ノ加入スルニ因リ其資本増加シ又已ニ拂込タル全部又ハ一部ヲ引取ルニ因リ其資本減少スルモノナリ（千八百六十七年ノ法第四十八條）夫レ資本増減會社ハ名稱ノ如ク資本増減アリテ資本確定會社トハ異ナルアリト雖モ又全ク別種ノ會社ニアラス其異ナル性質ヲ表スル處ノ人及ヒ資本ノ増減ハ總テノ會社ニ之ヲ適用スルヲ得ルモノナリ故ニ資本増減會社ハ諸般會社ノ特別ノ形狀タルニ過キサルナリ

資本増減會社ハ其組織トシタル所ノ會社ニ適用スヘキ總則ト併セテ左ノ特別規則ヲ遵奉セサル可ラス

(第一) 會社資本ハ其創立規則ニ規定シ二十万フランク以上タルコトヲ得ス然レモ總會ノ決議ニ因リ二十万フランクノ金額ヲ超過セサルモハ毎年資本ヲ増加スルコトヲ得ヘシ斯ノ制限アル所以ハ此種ノ會社ヲ増加シ且之ヲシテ漸次其効ヲ奏セシメントノ計畫ニ據ルモノナリ（千八百六十七年ノ法第四十六條）

(第二) 株式又ハ小割株式ハ最寡數ヲ五十フランクト爲スコトヲ得ヘシ而シテ此會社ノ創立ニハ資本十分ノ一ノ拂込アルヲ以テ足レリトス夫レ斯ノ如キ規則アル所以ハ人ヲシテ此會社ニ加入シ易カラシムルノ目的ニ出タルモノナリ然レモ相場昂抵ノ弊ヲ避ケン爲メ此株式ハ全額ノ拂込アリシ後ト雖モ記名タルヘキモノトス且ツ



帳面書換ノ方法ヲ以テ賣資スルコトハ會社ノ設立確定ノ上ニアラサレハ之ヲ許サス又社則チ以テ取締役又ハ株主總會ニ株式賣買ニ故障ヲ遂フルノ權ヲ附與スルヲ得（千八百六十七年ノ法第五十條）

（第三） 差入金高ヲ引去リ資本ヲ減少シ得ヘキ高ハ社則チ以テ之ヲ定ム可シ而シテ其高ハ會社資本ノ十分ノ一以下タルヲ得ス

（第四） 各社員ハ特約アル時ノ外隨意ニ退社シ得ルノミナラス猶總會ニ於テ社則改正ニ關シ定メタル多數決ノ法ニ因リ一名又ハ數名ノ社員ヲ退社セシムルコトヲ議決スルヲ得ヘシト約スルヲ得ヘシ而シテ其退社シタル者及ヒ退社セシメタル者ハ其退社ノ當時存立セシ總テノ

義務ニ付社員及ヒ社外人ニ對シ五年間其責任アルモノトス（千八百六十七年ノ法第五十三條）

（第五） 此會社ハ組織ノ如何ヲ問ハス取締役ヲ代理トシ裁判所ニ出頭セシムルヲ得其會社ノ民事タルト商事タルトナ間フコトヲ要セス（千八百六十七年ノ法第五十三條）

（第六） 此會社ハ社員中一名ノ死去退社禁治産破産ニ因リ決シテ解散スルコトナク當然殘リノ社員ノ間ニ繼續スルモノトス

爰ニ注意スヘキハ會社資本ノ増減ヲ証シ并ニ取締役ノ外他社員ノ退社ヲ証明スヘキ證書ハ以下ニ述フル所ノ寄置及ヒ公告ノ法式ニ促フコトヲ要セサルコト是ナリ

第六十三答 先ツ此問題ヲ決スルノ利益ヲ示サシニ其證書



ヲ要スルハ會社成立ノ公式ナリトスルキハ會社ハ證書ニ  
 依ルニ非サレハ成立セサルモノニシテ他ニ證書ノ缺欠ヲ  
 補フモノナカルヘシ若シ之ニ反シ證據ノ爲メニ要スルト  
 モハ百五十「フ」以上ニ於テハ証人ヲ以テ會社ノ成立  
 ナ証明シ得サルコトハ勿論ナルモ簿冊自認又ハ宣誓ヲ以テ  
 之ヲ証スルコト得ヘシ  
 或說ニ曰法律カ證書ヲ必要トスルコトハ會社ノ公告ヲ要求  
 スルヲ以テ知ルヘシ公告ハ會社ノ契約證書アルニ非サレ  
 ハ得テ爲ス可ラス是レ證書ハ公式トシテ要求シ會社成立  
 ノ要件タル所以ナリト  
 又他ノ說ニ曰夫レ商法ハ民法ノ原則ヲ摸寫シタルニ過キ  
 ス民事會社ニ對スルヨリモ商事會社ニ對シテ嚴酷ナルハ

又奇怪ト云ハサルヲ得ス抑々立法官ノ目的ハ百五十「フ」ラ  
 シ「以上」ニ在テハ人証ヲ排斥スルモ自認又ハ宣誓ノ如キ  
 他ノ證據法ヲ除去スルニ非サルナリ（商法第三十九條第四  
 十一條民法第一千三百  
 八十三條及七千）會社ノ公告ハ法律ノ命スル處ニシテ之ヲ  
 爲サ、ルキハ關係者ニ對シ會社ノ効ナク又其公告ハ必ス  
 ヤ證書アルヲ要スルコトハ眞ニ然リ然レモ證書ヲ作ラサル  
 ニ原由スト雖モ公告ヲ爲サ、ルノ故ヲ以テ會社ハ無効ニ  
 歸スルモ既往ニ關シ社員ノ權利義務ハ其合意ヲ以テ規定  
 ス可キモノニシテ他ノ方法ニ依リ合意ノ成立ヲ証明スル  
 ノ妨トナラサルナリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ證書ヲ要スルハ  
 唯々證據ノ爲メナリトス

第六十四答 凡ソ商事會社ハ共分組合ヲ除クノ外之レカ公



告ヲ爲サ、ル可ラヌ千八百六十七年ノ新法ヲ以テ商法第四十二條ヨリ第四十六條迄ヲ廢止シ各種ノ會社ニ對シ一定ノ公告規則ヲ設ケタリ  
公告ハ左ノ方法ヲ以テスルナリ

第一 會社創立證書若シ私證書ナルキハ正本一通又公正證書ナルキハ謄本一通ヲ會社所在地ノ商事裁判所及ヒ治安裁判所ノ書記局ニ納ムルヲ但シ會社創立一ヶ月内ニ納ムルヲ要ス

株式差金會社及ヒ無名會社ノ創立證書ニハ左ノ書類ヲ添ユヘシ即チ○金圓ニ非サル差入物件及ヒ社員ノ爲メニ特約アル利益ノ認諾ニ關シ相違ナキ旨ヲ証シタル總會決議ノ寫○無名會社ニ付テハ株式申込人ノ姓名、身分、住所及ヒ

其株式ノ數ヲ記シ適法ニ相違ナキ旨ヲ証シタル姓名簿千八百六十七年ノ

法第五十五條

第二 會社創立證書及ヒ其附屬書類ノ拔書ヲ州ノ一新聞

紙州ニ在テハ州ニ廣告スヘシ此廣告モ前同様一ヶ月内ニ爲スヘシ其新聞紙ニ掲載シタルハ新聞紙ノ一枚

ヲ以テ之ヲ證ス但シ出版人之ヲ保證シ區長之ニ檢印シ而シテ其日附ヨリ三ヶ月内ニ記録ノ手續ヲ行フ可キモノト

ス千八百六十七年ノ法第五十六條

(附言) 拔書ニハ左ノ事項ヲ記載ス

- 一 株主又ハ金主ノ外社員ノ姓名、社名、會社設置ノ場所
- 二 會社ノ爲メ管理人又ハ支配人トナリ且手署ノ任ヲ受ケシ社員ノ姓名



三 會社資本ノ高及ヒ株主ヨリ入金シ又ハ入金スヘキ高

四 會社開業及ヒ終業ノ時期并ニ治安裁判所及ヒ商事裁判所ノ書記局ニ證書ヲ納メタル年月日

五 會社ノ合名ナルカ通常差金會社タルカ將タ株式差金會社タルカ又ハ無名會社ナルカ資本増減會社ナルカヲ明示スルコト

無名會社ニ付テハ特ニ通貨又ハ他ノ物品ヲ區別シ會社資本ノ高ヲ記シ又準備金ヲ積立ル爲メ潤益中ヨリ引去ルヘキ割合ヲモ記載ス可シ

會社若シ數個ノ郡ニ跨リ各所ニ商店ヲ有スルキハ各商店所在地ニ於テ書類ヲ納メ公告ヲ爲ス可シ又數個ノ郡ニ分

チタル市府ニ在テハ會社本舖所在地ノ治安裁判所書記局ニノミ書類ヲ納ム可シ（千八百六十七年ノ法第五十九條）書記局ニ納メタル證書及ヒ書類ノ拔書公正ノ証書ナルキハ公証人之ニ手署シ私證書ナルキハ合名會社ニ於テハ其社員差金會社ニ於テハ管理人又無名會社ニ在テハ支配人之ニ手署スヘシ

第六十五答 書記局ニ書類ヲ納ムルコト及ヒ公告ヲ爲スコトニ付テノ制裁○千八百六十七年ノ法律第五十六條末項ニ依レハ書記局ニ書類ヲ納ムルコト及ヒ公告ヲ爲スコトノ法式ヲ履踐セザリシキハ關係者ニ對シ會社ハ無効ナリト雖モ社員ヨリ第三者ニ向テ其無効ヲ主張スルヲ得サルモノトス夫レ此制裁ハ商法舊第四十二條ニ同文ヲ以テ設定セシ處ナリ當時疑問ニ屬セシハ第四十二條ハ無名會社ニ之ヲ適



施スヘキヤ否ノ問題ナリキ然レモ新法第五十六條ハ公告ノ法式ニ服スル各種ノ會社ニ適用スヘキ制裁ヲ設ケタルヲ以テ現今ニ在テハ此疑問ノ生スルコトナシ公告ノ法式ヲ履行セサル場合ニ於テ法律ハ關係者ニ對シ無効ヲ宣告セリ此關係者ナル語ハ汎博ナルヨリ左ノ結果ヲ生ス即チ

一 社外人ハ社員ニ對シ其知ルチ要セシ約款ノ無効ヲ言立ルチ得ヘキコト

故ニ例ヘハ合名會社ニ於テ社員ノ一名獨リ會社ノ名ヲ以テ手署シ會社ニ義務ヲ負ハシムルノ權利ヲ有スヘキ旨ノ契約アリトセンニ社外人斯ノ約款アルチ知ラス會社ノ名ヲ以テ手署シタル他ノ一社員ト取引契約ヲ爲シタルニ若

シ其公告ナキニ於テハ該約款ノ無効タルチ言立ルチ得會社及ヒ社員等ニ對シ債主權アリト陳フルチ得ヘシ蓋シ社員等ハ其無効ヲ言立テ以テ義務ヲ免カル、チ得サルヘシ

二 社員躬テ共同社員ニ對シ無効ヲ主張シ得ルコト

此決定ハ立法官ノ用ヒタル關係者ナル語ノ汎博ナルト無効ハ社員ヨリ社外人ニ對抗シ言立ルチ得スト明言シテ唯一ノ狹隘ナル例外ヲ示シタルトニ依リ其不當ナラサルチ知ル社員ハ社外人ヲ除クノ外其他ノ者ニ對シテハ無効ヲ言立ルチ得ルチ看ルヘキナリ是レ亦千六百七十三年ノ宜令ニ於テ決セシ処ナリキ實ニ社員ノ更ニ安全ヲ得サル會社ニ強テ之ヲ抑留ス可ラサルハ至當ノ事ナルカ故ニ社員等ハ會社ノ無効ヲ請求シ且決算ヲ爲サシムルチ得ヘシ而



シテ會社ハ將來ノミニ付キ無効タルヘシ  
既<sup>○</sup>往ニ付テハ裁判例ニ依ルニ會社契約ニ循ヒ決算ヲ爲ス  
ヘク就中損益ニ付各社員ノ負擔ヲ定ム可キモノト爲セリ  
是レ至當ト云フ可シ（千八百五十九年五月十六日千八百六  
年七月七日）  
十二年三月十九日及ヒ千八百七十三年  
大審院判決

（附言） 若シ不適法ノ會社ナルキハ既往將來共ニ無効タ  
ルヘシ

第六十六答

此問題ニ付テハ左ノ二個ノ説アリ

甲説ニ曰社員ノ私債主ハ其義務者タル社員ヨリ餘分ノ權  
利ヲ有ス可ラス其義務者ノ過失ヨリ生スル結果ヲ自己ニ  
負ハサル可ラサルノ故ヲ以テ私債主ハ會社ノ無効ヲ言立  
ルヲ得スト

乙説ニ曰社員ノ私債主ハ自己固有ノ權利ヲ行フモノニシ  
テ其社員ノ權利ヲ行フニ非サレハ關係者タル資格ヲ有ス  
ルモノナリ會社ノ資本ニ付キ會社ノ債主カ行ハントスル  
先取權ヲ拒却スルハ大ニ其利益ニ關スルモノニシテ畢竟  
公告ノ法式モ會社資本ノ金高ヲ公告スルヲ以テ社員ノ私  
債主ノ爲メ設ケタルヲ知ルヘキナリ（千八百七十年五月  
十一日大審院判決）  
此無効ハ一般ニ公ケノ秩序ニ關スル無効ト看做セリ故ニ  
隨意ノ執行殊ニ一ヶ月ノ定期後ニ爲シタル公告ヲ以テ之  
ヲ完補スルヲ得サルナリ

第六十七答

會社ハ左ノ方法ニ因テ解散ス

第一 會社創立契約書ニ定メタル期限ニ至ル事但シ其期  
限ヲ延期スルハ此限ニアラス



第二 物件ノ滅盡若シハ事業ノ終成○物件ノ滅盡トハ例  
ヘハ會社資本ヲ構成スル發明免狀ノ取消トナリタル場合  
ノ如シ事業ノ終成トハ會社ノ目的ヲ達シタルヲ云フ（民法  
第八百六  
十五條）

第三 會社ニ約シ未タ差入レサル差入物件ノ滅盡（民法第  
六百十  
七條）例ヘハ一社員已レニ屬セサル物件若クハ停止ノ未必  
ノ條件ニ依リ後日自己ノ所有ニ歸ス可キ物件ヲ會社ニ差  
入レント約シ會社其所有權ヲ獲得セサル前偶然物件ノ滅  
盡シタルキハ會社解散ニ至ルヘシ

第四 社員中ノ一名死去禁治産破産シタル事（民法第千八  
百六十五條）此等ノ事件ハ人ヲ主トシテ成立シタル會社ニアラサレハ  
解散ノ原因タラス故ニ合名會社ノ一社員又ハ差金會社ノ

管理人若クハ有限責任社員ノ一名等ノ身上ニ此事實ヲ生  
シタルキハ會社解散ノ原因タルヘシト雖モ株式差金會社  
若クハ無名會社株主ノ一名又ハ資本増減會社ノ一社員ノ  
身上ニ生シタルニ於テハ毫モ影響ヲ及スヘキモノニアラ  
ス（千八百六十七年  
ノ法第五十四條）且又此等ノ事件ノ生スルモ其場合ノ如  
何ヲ問ハス他社員ノ間若クハ死去シタル社員ノ相續人ヲ  
以テ依然會社ヲ繼續スヘキコトノ契約ヲ爲スヲ得ヘシ（民法  
第八百六  
十八條）

第五 総社員ノ承諾

第六 一名又ハ數名其會社ヲ退去セント欲スル事○此原  
因ヲ以テ解社スルコトハ無期ノ會社ニアラサレハ行ハレス  
尙且ツ其退去セント欲スル者ヨリ総社員ニ其意ヲ告知セ



サルヘカラス而シテ其退社ハ善意ニ出テ且ツ時宜ニ適セ  
 サル可ラス（民法第千八百六十九條及千八百七十條）又此原因ハ株式會社ニ適  
 施ス可ラス蓋シ株式會社ハ株主其株式ヲ他人ニ譲リ隨意  
 ニ退社スルヲ得ヘケレハナリ又資本増減會社ニ於ルモ社  
 員ハ適意ニ退社シ得ルヲ以テ此原因ヲ適施ス可ラサルナ  
 リ（千八百六十七年ノ法第五十二條）  
 定期會社ニ在テハ正當ノ原因アルニアラサレハ契約期限  
 前ニ社員ノ一名ヨリ解社ノ請求ヲ爲スヲ許サス而シテ  
 其原因如何ハ裁判所ノ認定ニ任ス故ニ之ヲ訴訟ノ方法ニ  
 依ル解社ト稱ス蓋シ當然解社ニ至ル此他ノ場合ニ反對シ  
 テ云フモノナリ

第六十八答 無名會社ノ解散ニ二個ノ特別ナル原因アリ即

チ

第一 會社資本ノ四分ノ三ヲ損失シタル事

第二 社員七名以下ニ減シ一ケ年ヲ經過シタル事

第六十九答 夫レ決算ハ會社解散後其現狀ヲ確定スルヲ目

的トス而シテ其事務ハ即チ○第一「アクチーフ」（貸）ヲ知ル

○第二「パツシーフ」（借）ヲ定ムルヲ○第三其貸借ヲ比較シ以

テ社員間ニ分配スヘキ金額又社員ヨリ辨償ス可キ負債額

ヲ定ムル爲メ貸附金ノ取立及ヒ負債ノ償却ニ係ル事務ヲ

代理スルヲ是ナリ

此等ノ事務ハ決算人ノ司トル所トス決算人ハ會社契約書

ヲ以テ撰任シ若クハ設立後ノ契約書ヲ以テ撰任シ又社員

ノ意見一致セサル場合ニ於テハ商事裁判所ヨリ撰任スル



モノナリ

決算人ハ社員中ヨリ之ヲ撰任シ又ハ會社ニ關係ヲ有セサル他人ヨリ之ヲ撰任スルヲ得ヘシ

決算人ハ左ノ二個ノ資格ヲ有ス即チ

(一) 會社財産ノ受○托○人○タリ其目錄ヲ調製セサル可ラス

(二) 會社ノ代○理○人○タリ其決算ノ事務ヲ處辨セサル可ラス而シテ決算人ハ其契約ヲ爲ス處ノ他人ニ對シ自己ニ義務ヲ負フモノニアラス單ニ社員ヲシテ義務ヲ負ハシムル者ナリ

一般ノ定説ニ依ルニ決算人ハ其權限廣シト雖モ不動産ヲ賣拂ヒ又ハ之ヲ書入質トシ或ハ訴訟ヲ和解シ又ハ判斷人ノ判斷ニ任スル等ノ權ヲ有スルモノニアラス

然リ而シテ決算ノ終結ニ至ル迄ハ會社存續スヘクシテ即チ決算人ノ爲メ無形人ノ生存スルモノナリ故ニ左ノ結果ヲ生ス

(第一) 會社ノ債主ハ社員ノ私債主ニ先タチ會社資本ヲ以テ其負債ヲ辨濟セシムルノ權アリ

(第二) 會社ニ關スル訴訟アルキハ決算人ハ會社ヲ代理スヘシ

(第三) 會社ハ決算中ト雖モ猶破産ノ言渡ヲ受クルコアリ

(第四) 會社ノ不動産ハ決算中ト雖モ社員ノ婦又ハ社員ノ後見ヲ受クル幼者或ハ禁治産者ノ爲メ法律上ノ書入質トナラサルナリ是ヲ以テ其不動産ヲ得タル者ハ之カ



除除ヲ爲スニ及ハス

(第五) 社員ノ一名未丁年者ナル相續人ヲ殘シテ死去シ  
爲メニ會社解散シタル場合ニ在テハ會社ノ債主ハ會社  
ニ關スル不動産ヲ賣拂フノ前先ツ未丁年者ノ動産ヲ賣  
拂ハシムルヲ要セス(民法第二千二百六條及  
民法第二千二百七條)

第七十答 決算終結ニ至リシキハ分配ヲ爲ス可キモノトス  
即チ會社ノ資産ヲ總社員ノ間ニ其利益ニ割合セ分配スヘ  
キモノナリ

原則ニ於テハ遺物分派ニ關スル規則ヲ會社ノ分配ニ適施  
スルモノトス(民法第一千八百七十二條)是ヲ以テ如何ナル社員ト雖モ財  
産共通ヲ守ルノ責アルヲナシ之ニ反スル約束モ五年ノ期  
限超過ス可ラ(民法第八十五條)

夫レ財産分派ハ所有權ヲ申告スルモノニシテ之ヲ移轉ス  
ルモノニアラス(民法第八百一十五條)ト然レハ社員ハ自己ノ領收シ  
タル物件ニ付テハ何時ヨリ獨リ其所有權ヲ得タルモノト  
看做サル可キヤ  
或ル學者ノ說ニ依レハ會社設立ノ日即チ民事會社ト商事  
會社ノ別ナク共有ノ成立タル時ヨリ所有者トナルモノナ  
リト  
又一般ノ說ニ依ルキハ無形人ヲ以テ成立ツ商事會社ノ財  
産分派ハ解社ノ日ヨリ其効ヲ生スヘシ何トナレハ解社ニ  
至ル迄ハ無形人一個ニシテ其財産ヲ所有シ解社ノ時ヨリ  
初テ社員ノ共有トナレハナリ此說ハ前說ニ比スルニ公正  
ニシテ論理ニ適スルモノ、如シ



第七拾一答 會社ノ繼續中ニ社員某ノ私債主アリテ某ニ對シ裁判言渡ヲ受ケ千八百六十八年ニ裁判上書入質ノ登記ヲ爲シタリ而シテ其後會社ノ債主亦タ會社ニ對シ裁判言渡ヲ受ケ千八百六十九年書入質ノ登記ヲ爲シタリト假定セシ會社ハ千八百七十年ニ至リ解社トナリ會社ノ不動産ハ社員某ノ領收スル所トナレリ此場合ニ於テ第二說ニ從フキハ會社ノ債主ハ社員ノ私債主ニ先タチ辨濟ヲ受クヘシ何トナレハ社員ハ千八百七十年ニ所有者トナリタルニ過キサレハ不動産ハ會社ノ債主ノ爲メ其前ヨリ存スル書入質ノ負擔ヲ帶ヒテ其資産ニ入リタルモノナレハナリ

第七十二答 千六百七十三年ノ宣令ニ從ヒ商法典ハ社員間ノ爭論ハ判斷人ヲシテ之ヲ裁定セシムルヲ望メリ其然

ル所以ハ蓋シ各社員間親密ナル交情アリタルニ依リ其爭論ヲ公裁ニ附スルヲ嫌避セシニ依ル而シテ判斷人ナル者ハ裁判官タルヨリモ寧ロ和解人タルノ性質ヲ帶フヘク且ツ商事裁判所ノ裁判ニ比スレハ必ス迅速ニシテ費用ヲ節減シ且公平ヲ維持スルニ足ルヘシト思惟セシモノナリ然ルニ經驗ヲ以テ之ヲ徵スルニ大ニ立法官ノ所見ニ反對ノ實跡ヲ顯出シ弊害少ナカラサルヨリ早クモ強迫判斷人ヲ廢止スルノ意ヲ起シ千八百五十六年七月十七日ノ法ヲ以テ之ヲ廢止シ商法第五十一條ヨリ六十三條ニ至ルノ數條ヲ刪除シ尙第六百三十一條ヲ改正シ凡ソ商事會社ノ事ニ關スル社員間ノ爭論ハ商事裁判所ヲシテ之レカ裁判ヲ爲サシムルヲトセリ



斯ノ如ク強迫判断人ヲ廢止シタルモ商事裁判所ハ常ニ判断人ヲシテ原被両造ノ申立ヲ聽カシメ其和解ノ或ルヘキモノハ之レカ調和ヲナシ其成ラサル者ハ意見ヲ陳述セシムルヲ得ルナリ然レモ商事裁判所ハ其判断人ノ意見ニ拘束セラレ、コナカル可シ（訴訟法第四百二十九條）

第七十三答 千八百五十六年七月十七日ノ法ヲ以テ判断人ヲ廢シ商事會社ニ關スル社員間ノ爭論ヲシテ商事裁判所ノ管轄ニ屬セシメタリト雖モ社員ハ猶一般普通ノ訴訟人ト同シク特約ヲ以テ其間ノ爭論ハ之ヲ判断人ニ任スルコトヲ約束シ得可シ（訴訟法第一千三條以下參看）判断人ノ判断ニ任スル契約書ニハ左ノ二事ヲ記載スルヲ要ス若シ其記載ナキハ無効タルヘシ

一 爭論ノ目約

二 判断人ノ姓名

然レモ會社創立証書ヲ以テ豫メ社員間ノ爭論ハ之ヲ原被告ノ撰定スル判断人又其撰定ナキハ裁判所ノ任スル判断人ヲシテ判定セシム可シト約束シ得ルヤニ至テハ甲乙二派ノ説アリ

甲説ニ曰此約定ハ商法典自ラ保險ノコトニ關シ第三百三十二條ニ許ス處ニシテ公安ヲ害スルモノニアラスト  
乙説ニ曰凡ソ訴權ハ公安ニ基ツク者ナルニ今マ之ヲ妄リニ拋棄スルハ公安ヲ害スルモノナリ而シテ其既ニ起リタル爭訟ノ原由ヲ熟知シテ然ル後之ヲ判断人ニ委任スルハ原被告ノ意向ニ依ルモノニシテ敢テ是非ヲ加フルヲ要



セスト雖其原由ヲ知ルニ由ナキ未發ノ爭論ヲ以テ豫メ  
之ヲ判斷人ニ委任スルノ約ヲ爲スハ恰モ是レ訴權ヲ拋棄  
スルト同一ニシテ公安ヲ害スルニ至ルヘシ是レ即チ訴訟  
法第一千六條ノ設ケアル所以ナリ

第七十四答 商法第六十四條ニ社員ノ爲メ五年ノ特別ナル  
經時効ヲ規定シテ曰「結○算○人○ニ○ア○ラ○サ○ル○社○員○及○ヒ○其○寡○婦○相  
續人又ハ代權人ニ對スル訴訟ハ會社期限ノ終リタル日又  
ハ解散ノ時ヨリ起算シテ五年ヲ以テ經時効トス但シ之レ  
カ爲メニハ會社ノ期限ヲ記シタル會社創立契約書又ハ會  
社解散ノ證書ヲ公告スルヲ要シ（千八百六十七年）且ツ此等  
ノ法式ヲ行ヒタル後裁判上ノ訴ヲ以テ經時効ノ中斷ナキ  
トヲ要ス

第七十五答 夫レ會社解散ノ後社員ノ爲メニ設ケタル五年  
ノ經時効ハ合名會社及ヒ差金會社ノ無限責任社員ノ負荷  
スル連帶義務ヲ寬恕スル者ト云フヘシ夫レ會社解散ノ後  
ハ社員間ノ關係全ク解テ證據ヲ得ルノ方便ヲ欠キ答辨ヲ  
爲ス能ハサルヲ以テ會社ノ負フタル數多ノ義務ニ付際限  
ナク訴訟ヲ受ケサルハ社員ノ信用上切要ナル所ナリ是此  
條ノ設ケアル所以ナリ

第七十六答 商法第六十四條ハ左ノ効果ヲ生ス  
(一) 此五年ノ經時効ハ社員ニ對スル社外人ノ訴權ニノ  
ミ適用ス可モノニシテ社員間ノ關係ニ適用ス可ラス  
故ニ法律ハ會社ノ期限ヲ定ムル創立證書若シハ會社解  
散ノ證書ヲ公告シタル以上ニアラサレハ起算セサルモ



ノトセリ

(二) 此經時効ハ會社解散ノ後ニ至リ始テ適用スヘキモノトス

故ニ會社存續中ニ在テ社員ニ對スル訴權ハ普通ノ經時効ニ據ル可キモノトス

(三) 此經時効ノ期限ハ會社存立期限ヲ記載シタル創立契約書ノ公告アリシキハ其期限ノ最終ヨリ起算ス可ク又會社解散ノ場合ニ於テハ其解散ノ證書ヲ公告シタル日ヨリ起算ス可クシテ是レ其最長ノ期限ナリトス

故ニ此期限ノ後ニ左テハ社員ハ此經時効ヲ以テ對抗シ得タルハ勿論尙此期限ノ經過セサル前ト雖モ已ニ滿期ニ至リタル經時効ハ亦之ヲ申立ルヲ得ヘシ例ヘハ第三ノ人會

社解散ノ時ニ已ニ二十八年前ヨリ會社ノ權利者タリシモハ二年ノ後ハ其訴權消滅スヘキハ勿論ナリ

第七十七答 此特別ナル五年ノ經時効ハ商法第六十四條ニ明示スル如ク裁判所ニ訴ヘ又ハ義務者ノ自認ヲ以テ中斷スルヲ得ヘシ又法文ニハ此經時効ヲ停止スルノ明文ナシト雖モ此經時効モ亦期限又ハ未必條件等ニ依テ停止セラル、コアル可シ然レモ幼者若クハ禁治產者ノ故ヲ以テ停止セラル、コナシ何トナレハ斯ノ如キ五年以下ノ最短期ナル經時効ハ普通法ニ於テモ幼者又ハ禁治產者ノ爲メニ停止セラル、ナキヲ以テナリ



○ 正 誤

- 凡例一行目ノ千八百七十六年」ハ(千八百六十七年)
- 同二行目ノ「リビエール」ハ(リビエール)
- 二十一丁一行目ノ「其負」ハ(其責)      ○ 二十六丁ノ十二行目ノ「諸般」ハ(諸般)
- 三十丁十行目ノ「條疑」ハ(條款)      ○ 四十三丁ノ六行目ノ「經々」ハ(輕々)
- 五十五丁十二行目ノ「最年」ハ(前年)      ○ 六十四丁十行目ノ「道則」ハ(通則)
- 九十四丁九行目ノ「開シ」ハ(關シ)      ○ 百四丁十一行目ノ「無會社」ハ(無名會社)
- 百四丁十二行目ノ「件付」ハ(件ニ付)      ○ 百十七丁ノ一行目ノ「賣資」ハ(賣買)
- 百十八丁二行目ノ「從フ」ハ(從フ)      ○ 百二十丁一行目ノ「奇怪」ハ(奇怪)
- 百卅五丁一行目ノ「除除」ハ(滌除)      ○ 百四十三丁十行目ノ「左テ」ハ(在テ)
- 一覽表アンテレー會社一合○會社」ハ(合名會社)



明治廿年十月廿八日版權免許  
同 十二月 出版

(定價<sup>四</sup>拾錢)

著者兼  
出版人

東京府平民

內田 正雄

麴町區下二番  
町十一番地



發行所

東京神田區表神保町一番地

日本法律社

東京銀座四丁目

博聞本社

發賣所

大坂備後町四丁目

博聞分社



22  
163



